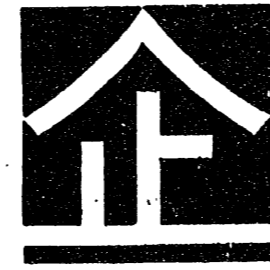
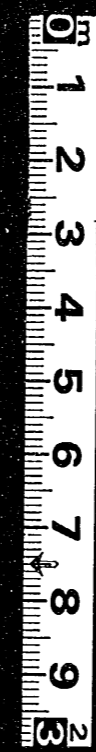


昭和十七年二月二十五日發行（毎月一冊二十五日發行）



第五卷  
（昭和十七年二月）



第二號  
（通計第十五號）

臨戦ソ聯の産業概観

ソ聯の戦時映畫政策

技術的進歩と民族の生活空間

資料・情報

英國 銃後努力の推進

英國の北方諸都市に於ける  
學童の空襲避難状況

世界一般 第二次世界大戦直前に於  
けるオランダの諸相

企 畫 院

3  
1

本誌記事轉載の際には、後め本院に照會の上、企業院發行『企畫』に  
よる旨を明記し、且つ當該刊行物二部寄贈ありたし

企 畫 院

### 企 畫 第五卷第二號 目次

#### 特 輯 記 事

#### 臨戦ソ聯の産業概観

##### 一、概 説

二、第三次五ヶ年計畫

(一) 電力工業

(二) 燃料工業

(三) 黑色及有色金屬工業

(四) 化學工業

(五) 輕工業

(六) 建設工業

(七) 農 業

ソ聯の戦時映畫政策

目 次

310  
141

(一)  
(二)  
(六)  
(七)  
(九)  
(一一)  
(一二)  
(一三)  
(一四)  
(一六)  
(一六)  
(二一)

ソ聯映畫の主題

一、英雄主義映畫

- (イ) 藝術 映 畫 (二四) (ロ) 國內戦映畫 (二五)
- (ハ) 歴史的記録映畫 (二六) (ニ) 少数民族映畫 (二七)

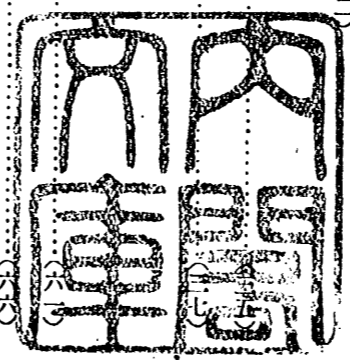
三、反ファシズム映畫

- (イ) 戦争ニュース映畫 (二八) (ロ) 日誌體映畫 (三〇)
- (ハ) 攻撃「恣逞」映畫 (三〇) (三) 戦争映畫集 (三一)
- (ホ) 戦争物語映畫 (三一) (ト) 對獨憎惡喚起映畫 (三二)
- (ト) 映畫「獨軍の潰滅」 (三三)

四、ロシア人と映畫宣傳の効果  
技術的進歩と民族の生活空間

資料・情報

- 英 國 戦後努力の推進 (六八)
- 英國の北方諸都市に於ける學童の空襲避難状況 (六八)
- 世界一般 第二次世界大戦直前に於けるオランダの諸相 (七六)



臨戦ソ聯の産業概観

ソ聯の五ヶ年計畫は、換言すれば臨戦體制の整備計畫であり、國防國家の建設計畫に外ならない。本資料は第三次五ヶ年計畫に於けるソ聯産業の全貌を俯瞰し得るところに特徴があり、獨ソ開戦前期のソ聯が如何に國力の發展と充實に力を傾倒しつゝあつたかを窺ふことが出来る。尚、本資料は一九四一年版「ソ聯年鑑」の主要記事の紹介である。

目次

- 一、概説
- 二、第三次五ヶ年計畫
  - (一) 電力工業
  - (二) 燃料工業
  - (三) 黑色及有色金屬工業
  - (四) 化學工業
  - (五) 輕工業
  - (六) 建設工業
  - (七) 農業

一、概説

今やソ聯邦國民は經濟建設に費した大なる努力の果實を收穫しつゝある。スターリンの國家工業化政策は、經濟的及び軍事的威力を醸成し、資本主義國家の環境の中に於てソ聯國家の獨立的存在を確保し、ソ聯邦は世界最大強國の臨戦ソ聯の産業概観

二  
圏内に列し、世界平和事業の後見者として武装せる陸海軍が嚴然と監視の役目を果しつゝある。願れば、ソ聯邦國民經濟はスターリンの五ヶ年計畫時代に育成せられ、漸く大なる成果を収める機運に達したのである。

一九一三年度の生産高の指數を一〇〇とすれば、第二次五ヶ年計畫末(一九三七年)のソ聯邦の工業生産品は八倍以上の八一六・四％に増加した。この時期に米國は五七％、英國は三二％、獨逸は一九％、佛蘭西は一％増加したに過ぎなかつた。

第三次五ヶ年計畫の最初の二年間(一九三八—一九三九年)にソ聯邦の工業は新しい成果を収め、一九三八年度ソ聯邦工業生産品の總計は一九三七年と比較して一一・三％増加、一九三九年度には一九三八年度に比較して尙一四・七％の増加を示した。然るに、一九三八年度に於ける主要資本主義諸國の工業は猛烈な經濟的危機の影響を受けて發達を見ず、寧ろ後退の一途を辿る状態にあつた。即ち、同年間に於ける工業生産高は、米國——三六％、佛蘭西——七・八％と何れも低下し、獨逸一國が軍需工業の盛になつた結果生産高が二三％増加を示したのみであつた。

スターリンの五ヶ年計畫に於けるソ聯邦工業の發達テンポは、資本主義諸國の發達史にその比を見出し得ない程著しかつた。かゝる發達の爲、ソ聯邦は第二次五ヶ年計畫末に於て工業生産高で歐洲では第一位、また米國に次いで世界第二位を獲得し、ソ聯邦工業は生産技術の點に於ても大なる發達を遂げた。

一九三六年度ソ聯邦工業に利用された電力の消費率は八一・六％に達したが、最も技術的に進歩した資本主義國家の電力消費率は七六・六％、其他の資本主義諸國は之より一層低率であつた。

ソ聯邦は世界に於て最も新しい機械裝備を有し、使用中の蒸氣機關の半數以上が一九二九年乃至一九三六年の間に

設置されたのであるが、是等機械の中には、蒸氣タービン(六三・三％)、ディーゼルエンジン(六二・八％)、電氣機械(六五・四％)、金屬截斷機(六％)等がある。

右の如く、ソ聯邦の機械設備の大部分が一〇年乃至一二年の若い年齢であるのに比較して、米國では設備機械の大半が二〇年以上の年齢に達してゐる。

改造の全期間及びスターリンの五ヶ年計畫時代に於てソ聯邦工業は資本主義諸國に見られない程の急テンポで發達した。併し發達の水準によれば、經濟方面は先進資本主義諸國の生産水準よりも著しく低位を辿つてゐる。これは、ソ聯邦が相続した遺産が頗る貧弱なことによつて説明される。

然るに今や形勢が一變して、一九三七年住民一人當りの工業生産品の消費率は一九一三年のそれに比較して七倍以上となり、他の諸國、即ち米國よりは僅かに四倍(帝政時代に於ては二・四倍)、英國よりは二・五倍、獨逸よりは二倍、佛蘭西よりは一倍半の立ち後れとなつた。

スターリンは「吾々は労働生産能力が昂揚され、生産技術が完備され、はされる程此の重要な經濟的課題を一層迅速に遂行し、此の課題を遂行する期間を一層促進せしめ得る」と言明した。

第十八回黨大會(一九三九年)以後の年代に於ける重要な課題は、労働者階級に絶大な生産能力増進の第二の方法としてのスターノフ運動、多數機臺操作、職務の兼務、以前殆ど男子にのみ限定されてゐた職業及び労働(例へば、汽車の運轉手、穿孔工、研磨工、熔鑄工等)への婦人の誘導奨励等である。

重機械製作工場では、一九三九年夏季に開始された多數機臺操作運動が他の工業部門にまで傳播普及せられ、労働の

臨戦ソ聯の産業概観

生産能力を發揮させる絶大な餘力のあることが立證された。  
重機械製作工業人民委員部の計算によれば、多數機操作は労働者の同一人員を以て生産高を二〇%昂揚する事が可能であると云ふ。

次に、職業の兼務は多數機操作運動と殆ど同時に發生し、組織的には後者の運動と關聯してゐる。多數機操作に轉向したスタハーノフ労働者は、自己の狭量な社會意識のみでは満足出来なくなり、自己が高度の労働の生産能力を發揮するには従つて自己の収入を増加させるには一箇又は二箇の専門の仕事に兼職するやうに努めなければならぬことになつた。例へば、電気熔接工は同時に鍛接截斷の専門工を兼ね、熔鑄爐の給水者は瓦斯工及び鍛冶工を兼ね、機械の組立工は同時に旋盤工を兼ねるのである。

労働の生産能力の昂揚及び生産高の増進方法に關する一九四〇年六月二十六日發布の法令は、一日八時間労働制及び一週七日の労働制への復歸、労働者の會社及び官衙からの任意退職の禁止等を規定した。

一日八時間の労働制及び一週七日労働制の實施は、ソ聯邦の主要經濟問題の遂行期間を短縮する強力な楯柱である。

一九四〇年十一月二日發布の「國家労働豫備軍」(譯註)に關する最高會議幹部會の指令も亦、政治上及び國民經濟上の重大な意義を有する。ソ聯邦工業は間斷なく發達し、新しい建設が漸次大規模となり、運輸方面にも躍進を見た結果、労働力の大なる需要を喚起した。現在(譯註、獨ソ開戦直前)ソ聯の工業、建築、運輸等に從事する労働者及び勤務者数は、一九二八年の千六百六十萬人から二千二百萬人に増加してゐる。而して第三次五ヶ年計畫を遂行する爲には

労働者数を三千三百萬人に達せしめることが必要である。

(譯註) この幹部會令に於て、政府は毎年八〇萬乃至一〇〇萬の都市及び農村の子弟を産業に動員する必要上、それらの者を労働豫備軍として徵募し、新たに特設さるべき職工學校、鑛道學校及び工場實習學校に收容して夫々専門の技術教育を施す旨が規定されてゐる。即ち政府は、普通教育を了へた都市及び農村の子弟中から毎年八〇一〇〇萬人を強制動員して初歩の技術教育を授け、逐次鑛山、工場、鑛道、建設方面に就業せしめんとするのであつて、コルホーズに於ては十四歳乃至十五歳以下のコルホーズ員一〇〇名につき、職工學校及び鑛道學校には十四—十五歳、工場實習學校には十六—十七歳の青年を各二名づゝ徵募するため、毎年コルホーズ議長が當該コルホーズに於てこれを適當なことになつてゐる。職工學校、鑛道學校の修業年限は各二年、工場實習學校は六ヶ月。尙本法は、コルホーズに於ける餘剰青年労働の計画的組織の利用をその主旨とする。從來コルホーズの餘剰労働の都市工業への吸收利用は常に行はれて來たが、この法令の特徵とする所は、從來の十五—十六歳に對し十四—十七歳の未成年者の徵募にあるのであつて、これは當座の臨時的措置でなく、寧ろ將來の労働力を確保すべき恆久策と見做される。

- (一) 第一次五ヶ年計畫期間(一九二八年—一九三三年)に於て工業建設に關聯して生じた歴大な労働力の需要は、主としてコルホーズ化によつて生じた過剰人口によつて補給された。(労働人員増加数の約六八%)
- (二) 第二次五ヶ年計畫(一九三三年—一九三七年)に於てはかかる過程は完了し、労働資源として婦人労働が主要な役割を占めるに至つた(約八〇%)。併しこの数は未だ微弱なものであつた。
- (三) 第三次五ヶ年計畫(一九三八年—一九四二年)は労働人員を一九三七年より二一%増加することを豫定した。換言すれば、第三次五ヶ年計畫期間に約五百六十萬人を増加させ、一九四二年の労働人員を三千二百六十萬人にするところが豫定されたのである。併しコルホーズに於て直接的な労働資源がすでに枯涸を見、婦人労働者の増加にも一定の制限があるとすれば、結局、緊急な労働問題解決の主要な鍵は、特に労働規律の強化、労働生産性の引上げによる、現に動員中の労働人員の餘力の利用にある。一日八時間労働、一週七日制への復歸がソ聯邦の主要經濟問題の遂行期間を短縮する強力な楯柱とされる所以である。

臨戦ソ聯の産業概観

一九四〇年十一月二十四日附ソ聯邦最高會議幹部會令は、國家の制度として工業及び運輸労働常備軍に充分訓練された労働者を編入せしめつゝあるが故に甚大な意義を有する。

ソ聯邦對資本主義諸國の經濟的競争は國際舞臺に登場し、その競争の旗の下に第三次五ヶ年計畫の優勝旗の争奪戦が展開されつゝある。

### 二、第三次五ヶ年計畫

第三次五ヶ年計畫は、ソ聯邦國民經濟の全部門に互り先づ第一に將來に於ける工業の偉大な發達を綿密に調査研究したものである。

第一次五ヶ年計畫に於ける工業生産高の最大増加が一ヶ年六十三億ルーブル、第二次五ヶ年計畫に於けるそれが一ヶ年百四億ルーブルであるのに對して、第三次五ヶ年計畫に於ける工業生産高は年々平均百七十七億ルーブルに増加するはずである。

スタリーンの五ヶ年計畫時代に、ソ聯邦の經濟的狀勢は新たに改變せられ、ウクライナ(ドンバス)の舊石炭・金屬冶金基地と並行して、極東に強力な石炭・金屬冶金基地が建設された。即ちウラル・クズネツ綜合企業がそれである。

中央亞細亞自治共和國、ザカフカース、極東、極北地方等に重工業基地が建設され、幾多の新炭田が開發され、綿織物工業に新たに供給する農業原料基地が創設され、而して農業及び各種農産物の地理的分布が著しく變動した。即ち小麦は北方に、棉花はウクライナに、ゴム樹は白ロシア及び中部地方のクルスク州、リヤザン州、ツौरラ州等に、

何れも移植された。

第三次五ヶ年計畫は、各地方、各州、各地區に埋藏する總ての天然資源(石炭、石油、金屬、水力、森林、その他)の綜合的利用を要求してゐる。

ソ聯邦の主要經濟地方には、綜合的經濟の發達を確立し、地方の需要を満足させ得る程度に地方産の燃料、建築材料、化學肥料等、輕工業及び重工業の莫大な製品の獲得が行はなければならない。

特に第三次五ヶ年計畫期間には、極東地方の經濟的意義が高められ、此處に石炭、金屬、織物工業及び其他の新基地が設立された。

建設期間の短縮及び新企業の開發の見地から見て、ソ聯邦國民經濟の全部門に於ける中小企業建設への一大轉向に對する第三次五ヶ年計畫の制度は重大な意義を有する。

第十八回黨大會は、機械工業の大發展に大なる努力を傾倒すると同時に、工業の最も微細な専門化をも失念せず、國民經濟に勞資の大節減を與へる企業の協同組合の普及と宣傳とを奨励してゐる。

### (一) 電力工業

電動力の生産に關しては、帝政露西亞は世界で第十五位、歐洲では第七位を占め、瑞西よりも僅少であつた。

然しながら一九一五年十月初よりすべての國家經濟を徹底的に改革する計畫が樹立され、その基礎が先づ國家の電化計畫に置かれた。

一九二〇年ゴエロ(全露電化委員會)が設立され、有名な「ゴエロ電化計畫」が作成された。

臨戦ソ聯の産業概観

發電力及び發電量の發達狀況を示せば左の通りである。

(ソ聯邦の電力設備の發達狀況)

年 度	力(各年末)	
	千キロワット	百萬キロワット
一九一三年	一、〇三五	一、〇〇〇
一九一六年	一、一三〇	一、〇九三
一九二〇年	一、一四九	一、一〇〇
一九二五年	一、三七五	一、三二九
一九二六年	一、五二八	一、四七六
一九二七年	一、六七三	一、六一六
一九二八年	一、八七四	一、八一六
一九二九年	二、三四四	二、二六五
一九三〇年	二、八九四	二、七九六
一九三一年	三、九六八	三、八三四
一九三二年	四、六七七	四、五一一
一九三三年	五、五八三	五、四〇〇
一九三四年	六、二八七	六、〇六〇
一九三五年	六、九一四	六、六六九
一九三六年	七、四九〇	七、二二四
一九三七年	八、一一七	七、八四〇

第二次五ヶ年計畫の業績に鑑み、第三次五ヶ年計畫は、五ヶ年末(一九四二年末)までに、一九三七年年度の三六・四(十億キロワット時)から一九四二年の七五(十億キロワット時)即ち發電量を二倍に増加せしめる目論見の下に、新

に水力發電所を建設する歴大な計畫を企てゝゐる。

一九四二年庶民一人當りの電力消費量は、最早二二五キロワット時でなく四一六・七キロワット時となり、このことは將來電動力を農業、工業及び照明器具製作等の方面に利用範圍を擴大し得ることを意味してゐる。かくてソ聯邦は全く天與の電動力の豊庫を把握するに至つた。かゝる見地より、小河川の水力資源を利用しての、小規模な發電所建設の大發達を企圖してゐる第三次五ヶ年計畫は重大な意義を有する。

(二) 燃料工業

(石 炭)

ソ聯邦の燃料資源は無盡蔵で、世界の石炭貯藏量の二〇%以上を集中し、原油の埋藏量と泥炭層とに於てソ聯邦は世界の第二位を占めてゐる。尙、可燃性地下瓦斯燃料用木材に富んでゐるが、工業價値として首位を占めるものは石炭である。

ソ聯邦に於ては一九三七年度に一九一三年に比較して四倍以上の一億二千八百萬噸の石炭が採掘され、住民一人當りの石炭消費量は七五七噸で、三倍の増加を見たが、併し一人當りの石炭消費量は主要資本主義諸國より幾倍も立ち後れてゐる。

一九三八年度には一億三千二百九十萬噸採炭され、一九三九年にはそれは更に増大した。

而して石炭工業の地理的分布に大變動が行はれ、その結果ドネツ炭田の總採炭高の比重は漸次減少を辿り、クズネツ、ウラル、カラカンジンスク、東部シベリヤ、ザカフカース等、ソヴェエト政權下に創設された新炭田が大なる發

臨戦ソ聯の産業概観

展を遂げた。

ソ聯邦に於ては、石炭の機械掘は總採掘量の約九〇%を凌駕し、ドンバスでは約八九%以上である。併し地下労働の個々の作業、例へば鐵道貨車への運搬積込み等はまだ七〇%手働きで行はれてゐる。

第十八回黨大會は石炭の自給自足主義の標榜を確立し、多くの州及び地方は地方産の燃料で自給し、遠隔地方への燃料の輸送手数を省く爲に充分な可能性を與へた。

第三次五ヶ年計畫は専ら中小能力の堅坑の新設を企圖し、全五年間に推定量一億七千萬噸、実績一億六千萬噸を採炭する新堅坑の建設を豫定してゐる。

第三次五ヶ年計畫未だに石炭採掘を二億四千三百万噸に達せしめなければならない。而して一九四二年度には、住民一人當りの石炭消費量は一九三七年度の七五七噸に對し一、三六〇噸に達するはずである。

(石油、その他)

ソ聯邦工業の第二位を占めるものは石油である。

帝政露西亞では、石油の八〇%以上がバクー一地方のみで採取され、殘餘の二〇%がグロズネンスク及びマイコフスク地方で採取されてゐた。

ヴォルガ河とウラルとの間に石油の大寶庫のあることに就て地質學者の間に激論が起り、或者は此處に石油の發見を全然否定したが、他の多くの者は大深度に石油を發見する確信を表明した。

一九二九年ウラルのウエルフネエ、チウソフスク町に石油が噴出した。かくて、ヴォルガ及びウラル間に新たに石

油基地を建設する可能性が發見され、第二のバクーの思想が擡頭したのである。

更に一九三二年バシキール共和國に強力な石油泉が噴出し、一九三二―三四年にヴォルガ河のスイズラン及びカマ河附近に油田が發見された。尙バシキール及びブリカム等には、一九三九年更に新しい石油資源が發見された。

第三次五ヶ年計畫はヴォルガ河及びウラル間に尙一つの強力な石油基地の建設を課題とし、此處に六百萬噸の生産能力を有する石油加工工場の建設を企てたが、この課題は遂に實現した。

ウラル―ヴォルガ石油地方は「第二のバクー」で、地下の石油は無盡蔵であり、第三次五ヶ年計畫未だに七百萬噸の石油を國家に供給するはずである。尙、エンピンスク(カザフスタン)、ネビドダーク(トルクメン)、フェルガナスク(ウズベクスタン)、樺太等の、從來の第二義的な地方に於ても、石油の採掘が發展しつつある。

第三次五ヶ年計畫未だに、ソ聯邦の採油量は一九一三年度の九百二十萬噸及び一九三七年度の三千五十萬噸に對し五千四百萬噸に達するはずである。

採油高によれば、ソ聯邦は米國に次いで世界の第二位を占め、地下埋藏量は米國を凌駕するであらう。

尙、第三次五ヶ年計畫は、泥炭採掘の増加、可燃性頁岩の採掘及び利用に對して大なる努力を注いでゐる。就中、同計畫に於ては各種燃料の瓦斯化及び地下石炭の瓦斯化の問題に特別な注意が拂はれ、この問題は先づ實際的な解決を見た。

### (三) 黑色及び有色金屬工業

ソ聯邦に於ては、現在、マグネシウム、クズネツ、アゾフスク、サポロジスター、クリウオロジスキイ等の

陸産ソ聯の産業概観



新設工場及び根本的に改造されたマケフスキイ工場に於て、巨額の金属を採掘してゐる。

従来金属冶金基地は南部に一ヶ所しかなかつたが、現在極東に新基地としてウラル・クズネツ・コンビナートがあり、金属冶金工業は極東に向つて進出中で、該地方は無盡蔵の金属資源地として著名である。尙偉大なコークス化学工業がケメロウオ、マグニトゴルスク、スクーリンスク等に創設され、多数の石炭精錬工場が建設されてゐることは特筆すべきである。

ソ聯邦の新設金属冶金工場は、舊資本主義工業と趣を異にし、矮小な熔鑪の代りに有效容量九〇〇—一〇〇〇—一二〇〇立方メートルのマルチン爐を装置し、巨大な壓延機及び重量一五噸以内の鋼塊を壓搾する爐場が利用されてゐる。集積機による金属冶金工業の機械化は、個々の職場で作業する生産方法よりも六〇乃至七〇%以上の増産を示した。

第三次五ヶ年計畫は特殊鋼生産の経験を有し、現在ソ聯邦の工場では二百種類の多様な鋼鐵が製造されてゐる。例へば自動車、トラクター、ボールベアリング用の鋼磁石、變壓器用鋼、熱處理用鋼、高速切斷鋼其の他である。

以前非鐵金属を製造した工場は、現在特殊鋼及び良質鋼の製造に轉換してゐる。

一九四二年度鉄鐵の精錬は、一九三七年度のそれと比較して五二%増加の二千二百萬噸、鋼鐵は二千八百萬噸（五八%増加）、壓延鋼は二千一百萬噸（六二%増加）に達せしめなければならぬ。同年度に於て、住民一人當りの鉄鐵の精錬は一九三七年度の八六噸から一二二噸、鋼鐵の精錬は一〇噸から一五六噸にまで何れも増加を示し、ソ聯邦は鉄鐵及び鋼鐵の精錬では歐洲の第一位、また世界に於て第二位を占める。次に銅、亜鉛、ニッケル、錫及びアルミニウム等の有色金属の生産に於ても大なる成果を収めてゐる。

第三次五ヶ年計畫に於ては、有色金属に對し激増する國家經濟及び國防の需要を充分充實する爲、有色金属の生産を増加する課題を立案してゐるが、これが遂行された際には、ソ聯邦をして一大強國たらしめると同時に、他の國家への依存から完全に解放するであらう。

#### (四) 化学工業

ソ聯邦の化学工業は、肥料、天然（合成）ゴム、ゴム製品、人造纖維、硫酸及び其の他を生産する。

ソ聯邦は化学工業用原料—石油、原礦、加里鹽、磷酸鹽等に無盡蔵である。尙化学工業には、水、空氣（空氣より窒素、酸素が得られることは云ふまでもない）、コークス工業よりの廢物、熔鑪又はマルチン爐より放出される瓦斯、煙、其の他が利用される。

一九三八年度に於てソ聯邦は過磷酸百五十七萬一千噸（帝政時代より二五倍以上）を製造し、右肥料の生産では歐洲で第一位を占めた。合成ゴム、プラスチックの製造が發達し、硫酸、自動車タイヤ其の他を製造する大工場が新設され、更に化学肥料の生産が擴大せられた結果である。

ソ聯邦の農村地方の大部分に必要な窒素肥料の製造は、ドンバス、クズバス、ウラル、スクリノゴルスク等の石炭及び金属冶金工業地附近に集中された。

加里肥料はレニングラード、カリーニン、スモレンスクの各州、ベツサラビヤ共和國、ウクライナの西北部等に於て製造され、ソリカムの加里鑛山の如きは加里生産によつて世界最大工業の一と目されてゐる。序ながら、加里は帝政時代には外國から輸入されてゐた。

天然ゴムは従来ソ聯邦に生産されなかつたが、天然ゴム基地を建設する事業が創設以來すでに數年を闊してゐる。ゴム樹其の他の特殊植物が植付けられ、年々其の栽培事業が相當な成績を擧げるはずであるが、目下のところ天然ゴムは輸入を仰がねばならない。

右の輸入を防止する爲、ソ聯邦に合成ゴムの大工業を創設し、合成ゴムからゴム製品を製造しつゝある。ソ聯邦の合成ゴムの生産高は世界第一位である。

第三次五ヶ年計畫期間にアニリン染料及びプラスチックの製造が大發展を遂げ、之が製品は大に普及されてゐる。

第三次五ヶ年計畫は化學工業生産高の大發達を豫測し、一九四二年には化學工業は一九三七年よりも二・四倍以上、即ち百四十億ルーブルの生産が行はれる筈である。

斯るプログラムを遂行する爲多數の新しい化學工業が建設されつゝある。

(五) 輕工業

輕工業とは、廣義に解すれば綿織物、絹織物、靴、紙類、石鹼、砂糖、其の他日用品を製造する工業部門の全部を意味する。

第二次五ヶ年計畫は、第一次五ヶ年計畫の最終年度と比較して國民の消費量の水準を二倍上昇させることを企圖したが、該計畫は大體遂行された。

重工業の大工場建設と共に、輕工業の多くの企業が創設された(織物コンビナート、皮革製靴工場、代用皮革製造工

場、硝子工場等)。輕工業から食糧品工業(精肉、牛乳、罐詰、魚類、其の他)が獨立部門として分離發達した。

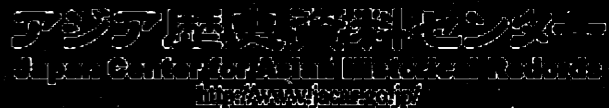
第二次五ヶ年計畫期間に於ける輕工業生産の發達テンポは、次の如くである。綿織物—二、九六四(百萬米)から三、四四八(百萬米)、毛織物—八八・七(百萬米)から一〇八・三(百萬米)、皮革製靴—八六・九(百萬打)から一八二・九(百萬打)、石鹼—三五七萬担から四九五・二萬担、砂糖—八〇萬担から二四〇萬担、紙類—四〇萬担から八〇萬担。然しながら第十八回黨大會に於てモロトフは次の如き比較表を引用して、ソ聯邦が綿織物、毛織物、皮革製靴、石鹼、砂糖、紙類等の日用品の住民一人當りの生産高の立ち後れを指摘した。

(ソ聯邦及び資本主義諸國の住民一人當り主要工業生産品の製造—最近公表された資料)

	ソ聯	米	國	ドイツ	英	國	佛	國	日	本
綿織物(平方米)	一六	五八	一	六〇	三一	三一	三一	三一	三一	五七
毛織物(米)	〇・六	二・八	一	七・四	一	一	一	一	一	一
皮革製靴(足)	一	二・六	一	二・二	一	一	一	一	一	一
紙類(噸)	五	四八	四二	四二	二二	二二	二二	二二	二二	八
砂糖(噸)	一四	一一	二九	二九	二二	二二	二二	二二	二二	一七
石鹼(噸)	三	一一	七	一一	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一

右の表で明かな如く、ソ聯邦が英國及び米國に追いつくには、綿織物では三倍以上、毛織物では五乃至六倍、皮革製靴では二・五倍、紙類では九倍製造を増加させねばならない。

第三次五ヶ年計畫は日用品の生産を、一九三七年に比し一・七倍増加させることを立案してゐる。即ち一九四二年度綿織物の製造は四、九〇〇百萬米(四二%増加)、毛織物—一七七百萬米(六七%増加)、皮革製靴—二五八百萬足(四



三%増加)、サラメ砂糖——三・五百万担(四四%増加)、罐詰製造——一、八〇〇百萬罐(一〇六%増加)等である。

一六

### (六) 建設工業

建設事業に對する投資額は、第一次五年計畫に五百十億ルーブル、第二次五年計畫に千五百十億ルーブル、第三次五年計畫に千九百二十億ルーブル。第三次計畫は第一次及び第二次計畫を合せた總額よりも多いのである。最近十ヶ年間の建設に係るもの、また現在建設中の新建設の一覽表だけでも、浩瀚な書物を編纂し得る。

最近十年間に創設された主な企業は、マグニトゴルスク及びクズネツ金屬冶金コンビナート、ウラル及びクラマトルスク重機械製作工場、ハリコフ、スターリングラード及びチエリヤビンスクに於けるトラクター製作工場、ドニエプロストロイ、白海—バルチック海運河、モスクワ—ヴォルガ運河、モスクワ地下鐵道、モスクワ—ドンバス間、トルクシプ—アクモリスク—カルカッタ間鐵道幹線等である。

現在ソ聯邦の先驅的工業建設は高度の技術、卓越した機械力によつて裝備されてゐる。

建築材料を製造する特殊工場から既製品として搬出される箇々の器材は、建築廣場で裝備され、斯る建築法は益々盛に應用されつゝある。

セメントの製造は第二次五年計畫に於て三百五十萬噸から五百五十萬噸に殆ど一・六倍増加、煉瓦の製造は四・九十億箇から八・七十億箇に一・八倍増加、石灰の製造は殆ど一・六倍、硝子の製造は三倍等いづれも増加した。

併し建築材料の住民一人當りの生産高は未だ主要資本主義諸國から著しく立ち後れてゐる。

### (七) 農業

帝政露西亞の最も豊作な年度たる一九一三年の農業總生産高は百二十億六千萬留(一九二六年—一九二七年の價格にて)で、その中農産物が八十億留、畜産物が四十億六十萬留であつた。然るに一九三七年農業經營の總生産高は二百億二千萬留で、その中農産物が百五十億一千留、畜産物が五十億一千留である。

かくてソ聯邦農業は總計で一九三七年度は一九一三年度と比較して五九・六%の増加を示し、特に農産物は八七・七%、畜産品は一〇・四%増加した。

かくの如き農業の成功はコルホーズの業績の優秀なる結果である。コルホーズ農業の經營は農村の疲弊を清算して富裕な生活への轉換を促し、今日ではコルホーズに統轄される農場は二百四十二萬四千で、農民の總播種面積の九九・三%に相當する。播種面積は帝政時代に比して三千萬ヘクタール以上増加した。

コルホーズと共にソフホーズ農場が活躍してゐるが、ソフホーズは一九三八年末播種面積一千二百四十萬ヘクタールを有する農場が三、九六一に達し、之は世界に於て最大規模の最も機械化されたものである。

ソ聯邦の農業は、機械化の點から見れば既に資本主義諸國の農業を遙かに抜き、コルホーズ村落には優秀な機械が裝備されてゐる。

一九三八年度に農業に使用されたトラクター臺数は四十八萬三千五百臺(馬力九百三十萬)、コンバイン臺數十五萬三千五百臺、その他合成及び半合成の打穀機十三萬五千箇、貨物自動車及び輕自動車約二十萬五千臺であつた。尙農業には、粒穀精選機、打穀機、棉花收穫機、馬鈴薯採掘機、甜菜採掘機、粗耕機、亞麻收穫機等が使用される。

一九二六年、二七年度と比較して一九三八年、三九年度に於ける農業生産品の商品化率(即ち市場への供給率)は、

臨戦ソ聯の産業概観

一七

粒穀類——三・五倍以上、棉花——五倍以上、亞麻纖維——二・四倍、甜菜糖二・五倍以上何れも増加を見た。斯の如く穀物問題を容易且迅速に解決し得た秘訣は、ソフホーズ及びソルホーズ生産品の高度商品化率に存するのである。小麦、裸麥、燕麥、大麥、黍等の生産に至つてはソ聯は世界の第一位、ソ聯の豌豆及び扁豆は世界總生産高の五分の四を占めて居る。尙小麦及び裸麥の住民一人當りの生産高は米國の二倍以上に相當する。

第十八回黨大會では、「最近三ヶ年間に穀物基地は以前ソ聯邦の穀倉であつたウクライナから北部及び極東へ移すことが強調された。その結果、就中極東では收穫の連鎖方法が行はれて素晴らしい成果を收め、百ポンド増收を目論む突撃作業班の猛烈な活躍が行はれた。

穀物收穫の突撃作業班の経験は、亞麻栽培業、棉花栽培業及び甜菜栽培業等にも普及された。

ソ聯邦の農業は棉花、甜菜、亞麻等の技術的栽培にも驚異的な成果を收め、一九三八年技術栽培による播種面積は一九二三年の殆ど二・五倍以上に達した。

全聯邦農業博覽會編纂に係る「棉花」誌の標題には、「ソ聯邦に於ては棉花問題は既に解決された」と述べてある。實際その通りで、新政權下に入つて以來棉花の播種面積は二倍、棉花の收穫は三・五倍増加し、ソ聯の棉花は世界でも有數なものとなつた。

ソ聯邦は砂糖の生産及び甜菜の收穫、亞麻及び麻の播種の點で世界の第一位を占めるに至つた。

ソ聯邦の主要經濟問題の解決の鍵たる生産品の増收競争は、ソルホーズの野菜栽培及び園藝の大なる發達を促すものである。一九三三年度の馬鈴薯植付面積は三百十萬ヘクターであつたが、一九三九年度には既に七百萬ヘクター以上に達した。一九三九年には野菜、瓜類等の植付面積は一九三三年度の七十五萬ヘクターに對して二百二十萬ヘクターに増加し、野菜の栽培は遠く北部、極地地方にまで進出し、樺太、カムチャツカ、コリマ地方でも盛に栽培されてゐる。

併しソルホーズは未だ労働者に野菜を豊富に供給する全能力を有してゐない。之が解決策としては、先づソルホーズに各自の貯水池を建設する事である。

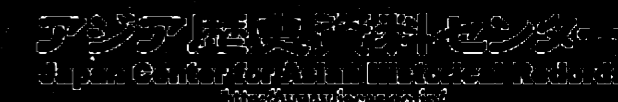
第十八回黨大會はモスクワ、レニングラード、キエフ、ハリコフ等の大工業都市附近の住民に一年中新鮮な野菜を供給するに充分な能力ある馬鈴薯及び野菜基地建設に關する第三次五ヶ年計畫の重要規定を採擇した。一九三九年—四〇年には、多數の工業中心地に馬鈴薯及び野菜基地の建設事業が展開された。併しこの重要な建設事業が依然として充分な速度で實行されてゐないことを銘記すべきである。

更に、各ソルホーズ農家は自己の果樹を植付けねばならない。果物は労働者に一年中豊富に供給されるべきである。「農業經營の最も立ち遅れた部門は畜産業である」と、第十八回黨大會でスターリンが述べた如く、最近年間有角大家畜及び豚の總頭數こそ著しく増加したが、養馬及び牧羊に至つては帝政時代の水準よりも低位にある。併しスターリンは斯かる立ち遅れを短期間に根絶し得る確信を表明した。

一九三三年より一九三八年までの全畜頭數の各年平均増加率を示せば、左の通りである。(%)

有角大家畜	+	二二・九	+	三〇・六	+	二〇・八
豚	+	〇・一	+	〇・四	+	八・三
羊及び山羊	+	二〇・一	+	三・三	+	〇・〇

臨戦ソ聯の産業概観



右表にて明かなやうに、ソ聯邦に於ては各種家畜頭数の増加が二乃至三〇%内外の時、獨逸及び米國に於ける増加は頗る微々たるもので、或は全然増加無く、寧ろ減少さへも見られるのである。

一九三九年七月より一九四〇年一月までに畜産農場の数は四十一萬八千八百より六十萬五千五百に増加した。即ち新たに十八萬六千の畜産農場が新設されたのである。

同一年間の農場の有角大家畜の頭数は一千二百九十萬頭から一千四百九十萬頭に、豚は六百六十萬頭から七百十萬頭に、羊及び山羊は二千七百二十萬頭から三千三百二十萬頭に夫々増加した。

ソ聯邦の養禽業は米國に比較して著しく劣つてゐる。ソ聯邦の家禽總數の中、一億六千萬が牡鶏であるが、米國ではソ聯邦より人口が遙かに少いが牡鶏は四億五千萬である。七面鳥はソ聯邦の約四十萬羽に對して米國は約三千萬羽である。

養禽場を所有するコルホーズは僅かに一二%でその大部分が生産能力の低い小規模なものである。コルホーズの使命は養禽業を最大限に發達せしめ、之が商品化率を高揚せしめる事にもある。

困難な組織時代を突破したコルホーズの建設以來、農業及び一般經濟の發達に大なる活路が見出され、それと同時に個々のコルホーズ員の經濟が堅實になつた。併し未だ先進國のコルホーズと比較すれば遜色があるので黨及び政府は立ち遅れてゐるコルホーズの發展に全努力を傾倒し、先進國のコルホーズに追いつくと同時に、之に將來富裕な生活を營ましめる事に關心を有してゐる。

### ソ聯の戰時映畫政策

#### 目次

- 一、ソ聯映畫の主題
- 二、英雄主義映畫
- 三、反ファシズム映畫
- 四、ロシヤ人と映畫宣傳の効果

#### 一、ソ聯映畫の主題

宣傳を以て政權保持の主要武器とするソ聯邦政府が、映畫を以て高度強力なる宣傳價値を有するものと認めるのは當然である。従つてソ聯邦に於ける映畫は、その發生當初から先づ明瞭な宣傳目的を以て作製され始めた。當時ソ聯邦に於ては凡ゆる部面に革命が遂行されてゐたので、映畫界に於て採り上げられた主題も、殆ど全部革命煽動禮讚的のものばかりで、多くロシヤのブルジョア資本家や地主や貴族に對し或は諸外國の干渉出兵に對しソ聯邦のプロレタリアなる勞農兵が如何に勇敢に犠牲的に戦ひ、如何に革命を守護し前進せしめたかを物語つたものであつた。一時我國にも輸入されたことのある『ジギンスカンの後裔』の如き此の種映畫の代表的なものである。

ソ聯の戰時映畫政策

その後斯くの如き革命映畫や内亂映畫の外に漸次文藝映畫も作製されるやうになつたが、之等も矢張り主として宣傳効果を狙つたもので、ロシアの古典文學や近代文學中の有名な作品を故意に革命禮讚的に脚色したものである。

ソ聯邦の映畫は、大體に於て斯くの如き傾向の下に發生發達し始めたが、一九三〇年代に入り、スターリンの「國社會主義建設、五ヶ年計畫實施が開始されるやソ聯邦映畫の主題にも主として五ヶ年計畫と經濟建設とが採り上げられ、更に國內肅清、獨逸に於けるナチス政權の出現、滿洲事變等ソ聯邦にとつて内外多事の時代となるやソ聯邦映畫の主流は、革命禮讚、經濟建設から反ファシズムに轉じ、その結果反獨的映畫が續々と作製されるやうになつた。然し、この時代の反獨映畫の材料は、多く内亂時代のウクライナに於ける獨軍並に白衛軍對赤軍の戦闘から採られたものであつた。

然し、斯くの如き反ファシズム映畫宣傳の激化に正比例してソ聯邦當局者等の所謂『ファシズムの脅威』は、『東西から』日一日とソ聯邦に向つて迫つて來たと解せられた。一國社會主義の建設は、高度國防國家建設とならなければならぬ。之は一面に於ては五ヶ年計畫による經濟國力の發展によつて實現し得られるけれども、『完全なる國防は攻撃にあり』と赤軍當局者が言ひ出して以來國防はたゞ經濟國力だけでは完璧を期し難いことが分つた。國防の眞髓が若し攻撃にあるとすれば、攻撃力の根柢は精神力にあり、精神力の根柢は愛國心にあるので、ソ聯邦當局者等は此の結論に立脚し、高度國防國家を建設するには何うしても愛國心を鼓吹しなければならぬと覺るに至つた。

經濟國力だけでは國防の完璧を期することが出来ないといふことは、共產主義的イデオロギイだけでは國防が出来ないといふことを意味するものである。國防のためには經濟力や武力以外に何うしても愛國心が必要である。愛國心

とは國民的傳統に基礎を置く純然たる國民主義である。共產主義者等も國民的傳統の援助を得なければ國防を全うすることが出来ないことに氣付き、此の時以來ソ聯邦に於ても先づ第一に愛國心や英雄主義が鼓吹されるやうになつた。若し愛國心の根柢が國民的傳統にあるとすれば、共產主義者なるソ聯邦當局者等も、否應なしに從來否定し侮辱し續けて來た大ロシア人の英雄や愛國者を禮讚しなければならぬのである。之は共產主義的民族政策に反するものではあるが、ファシズムの恐るべき脅威を眼前に見、又之を背後に感じては背に腹は代へられない。

其處でスターリンはロシアの國民的傳統的愛國心や英雄主義を採り上げ、從來ステニカ・ラーヂンやブガチョーフ等の如き帝政時代の叛逆者のみを英雄と見てゐたのに反して今度は帝政の擁護者確立者なるピョートル大帝を初めとしナポレオン軍を撃滅したクツゾフ元帥や波蘭軍を撃退したミーニン、ボジャールスキイの如き國家的人物をロシアの代表的英雄とし愛國者とするやうになつた。之はスターリンの對内的人民戰線政策とでもいふべきもので、ソ聯邦内大多數の非共產主義者をソヴェート政權の下に國防へ驅り出さんとする政策なのである。

五ヶ年計畫時代のソ聯邦映畫は、悉く此のロシアの國民主義的な愛國心や英雄主義の發揚を目的とし主眼として作製されたもので、其の多くはロシアの史實や有名な文藝的作品から取材したものであつた。

所が、一九三九年の獨ソ不侵略條約の締結以來此の種愛國映畫中反ファシズム的傾向のものは、突如映寫を禁止せられ、ロシアの史實と文藝作品とを共產主義的イデオロギイの下に脚色した映畫や愛國映畫のみが再び映寫幕に現はれるやうになつたが、昨年六月獨ソの開戦と同時にソ聯邦映畫の傾向は、急激に以前の進路に復歸し、ソ聯邦の愛國心と英雄主義とを鼓吹するために内亂時代から取材した愛國映畫と反ファシズム映畫とが再現し、次第に憎ファシズ

ム映畫へと進展するに至つた。

ソ聯邦の戦時下に於ける愛國映畫を分類すると、一、英雄主義映畫と、二、反ファシズム映畫とに大別することが出来る。前者に屬するものは、藝術映畫、國內戦映畫、歴史的記録映畫、少數民族懷柔映畫等で、後者に屬する對獨戦争映畫は、日誌體映畫、奉還映畫、戦争映畫集、戦争物語映畫、對獨憎惡喚起映畫、戦争ニュース映畫等である。之等映畫の傾向や製作を指導し、映畫工作を一手に引受けてゐる最高機關は、ソ聯邦人民委員會(内閣に相當するもの)附屬映畫事業委員會で、その委員長はイ・ポリシヤコフである。

## 二、英雄主義映畫

然し、獨ソ開戦當初ソ聯の映畫製作は、非常な困難に見舞はれた。といふのは、多くの撮影所が、戦線に接近した場所や獨軍の空襲に曝された場處にあつたからである。其處で開戦當初愛國心と英雄主義とを鼓吹するために先づ使された映畫は、戦前既に作製されてゐた反ファシズム的映畫と藝術映畫であつた。前者は主としてロシヤの國內戦(革命内亂)時代から取材した國內戦映畫であり、後者は主としてロシヤ文豪の有名な作品を脚色した英雄主義鼓吹映畫である。

## (イ) 藝術映畫

然し、一國の興廢を賭けた大戦争下の映畫觀衆は、斯くの如き舊映畫の再現に満足するものでないので、ソ聯の映

畫人は凡ゆる困難と闘ひながら相次いで藝術映畫を新たに作製した。例へば、レルモントフ原作、ゲラシモフ監督の『假裝舞踏會』、ゴリキイ原作、ロシヤリ監督の『アルターモフ家の事件』、ペトロフ及びムンブリート共作、イワノフスキイ監督の『アントン・イワノフの立腹』、グセフ原作、ブイリエ監督の『豚飼人と牧者』、シパーノフ原作、ブラウン監督の『海鷹』、ラフィリ原作、ベーク・ナザロフ監督の『サブーヒ』等がそれで、此の外にも目下なほ多數の藝術映畫が作製中であるといふことである。それはロシヤ文學やソヴェート文學や世界文學中の優秀な作品を愛國主義英雄主義的に脚色したものである。例へばオストロフスキイ原作、ドンスコイ監督の『鋼鐵は如何にして鍛へられたか』やマルク・トヴェン原作、ガリージ及びブロークシナ監督の『トム・ケンチー』等がその主なるものである。

## (ロ) 國內戦映畫

國內戦映畫といふものは、主として革命戦や外國干涉軍との戦闘や白衛軍との戦闘の史實から取材したもので、愛國主義及び英雄主義を鼓吹し、反ファシズム傾向を煽動するやうに作製されたものであるが、この種映畫も獨ソ開戦と同時に古いものが再登場し、新しいのは目下作製中である。新しい長尺映畫で、今年初頭に撮影を終る筈になつてゐるのは、フェオロド・イワノフ原作、ルコフ監督の『バルホメンコ』、ワシリーエフ兄弟監督の『ツァリツインの防衛』、アントノフスカヤ及びチョールヌイ合作、チャウレリ監督の『ゲオルギイ・サアカツゼ』等であるが、なほ此の外に一般に大なる期待をかけられてゐるものに『コトーフスキイ』がある。これは國內戦時代赤軍の指揮者コト

フスキイが戦線に於て如何に生活し闘争したかを示すもので、彼が當時ウクライナを占領してゐた獨逸軍と戦ふ場面に主力が注がれてゐる。

二六

なほ矢張り目下製作中のアレクセイ・トルストイ原作『某師團の進撃』も非常な期待をもたれてゐる。この映畫は某師團の英雄的進撃を描出するものである。この師團は敵の包圍に陥りながらも敵の後方へ進出し、敵を撃破しつゝ包圍を脱出して、英雄的行動の模範を示したものとされてゐる。

又カ・シモノフ原作、イワノフ及びビストルベル監督の『我が町出身の若者と』題する映畫も大なる期待がかけられてゐるが、之は其の全力と全思想とをフアシズムとの闘争に捧げてゐる勇敢なソ聯人を描くものである。なほブルト作、ジガン監督の『地區委員會書記』と題する映畫も近く作製される筈で、之は獨逸軍の占領した一小都市に於けるソ聯人の勇敢な闘争を物語るものである。

更に獨逸海軍と戦つたソ聯潜水艇乗組員の英雄的行動を現はしたブラウン監督の新映畫『潜水艇』や第一次歐洲戦争時代に養成された若い勇敢な死を恐れぬ航空兵を描いたクレイブス作、ベントリン監督の『星の世界へ行く路』とボグダノフ及びカープレル合作、ユレーネフ監督の『鐵の天使』も亦目下作製中の大作物である。

### (ハ) 歴史的記録映畫

歴史的記録映畫として特に好評を拍したのは、一九四一年十一月七日十月革命第二十四周年記念日當日モスクワの赤い廣場に於て行はれた『赤軍觀兵式』と當日開催された『モスクワ・ソヴェート會議』とである。之等の映畫は、一般

にソ聯人や赤軍の將兵や赤軍政治委員等の戰鬥精神を昂揚せしめ、更に獨逸軍との不屈の戰鬥を繼續せんとする敵愾心を強めることに大いに役立つたといふことである。

### (ニ) 少数民族映畫

少数民族映畫といふのは、ソ聯の戦時映畫政策が主として愛國心と英雄主義との昂揚にあり、従つて大ロシア人中心主義に復歸する嫌があるため、少数民族の反感醸成を恐れ、少数民族も亦ソ聯をその祖國として防衛せねばならぬといふことを教へるために作製されるものである。

斯くの如き少数民族映畫中にはソ聯邦東方諸民族の歴史や文學から取材されたものが多い。例へば、カザフ民族の大詩人ジャムプールの生活を描いた『ジャムプールの』やウズベック民族の有名な開發者で、社會的活動家である詩人ナゾイを描いた『ナゾイ』やタジック民族の傳説から取材した『解放者コーワ』等がそれである。

### 三、反ファシズム映畫

然らばソ聯邦映畫に於ては今次の獨逸戦争は如何に取扱はれてゐるか。勿論國內に愛國心や英雄主義を鼓吹し、戦意を昂揚せしむためには戦線に於ける將兵の勇敢な犠牲的行動を紹介するのが最も適當な方策であるが、何分ソ聯邦は開戦以來連戦連敗で、國民に紹介すべき場面を戦線に於て發見することは困難であつた。従つてソ聯には開戦後の戦争映畫が貧弱で、たゞ極めて断片的な、自國に有利な個々の場面のみが映寫幕に紹介されたに過ぎなかつた。

ソ聯の戦時映畫政策



然しソ聯の映畫指導者の着目したのは、冬季に於て豫期される赤軍の大攻撃であつた。ソ聯側の計算によると、冬將軍が嚴寒に乗つて一度襲來すれば、ソ聯の酷寒に慣れない獨軍は、非常な困難に陥り、その精銳な攻撃力を喪失するに相違ない。此の機會を逸せず赤軍は斷乎攻撃に轉じ、獨軍を國外に驅逐し終らねばならぬ。これは可能事であるとソ聯人は皆信じてゐた。ソ聯の映畫指導者も、此の機會を絶好のものとして狙つたのである。即ち嚴冬に於ける獨軍の全面的敗退といふ歴史的事件を映畫に納め、之を記録映畫として保存するばかりでなく、更に之を内外に宣傳して赤軍の強力を示すことを狙つたのである。

従つてソ聯の戦争映畫製作は、昨年十一月頃から俄に盛大になつた。實際ソ聯に於ける昨年末以來の嚴冬は、數十年に一度といふ珍しい酷寒を伴ひ、零下四十度乃至五十度のことも屢、であつた。ソ聯映畫指導者は此處ぞとばかり選りすぐつた優秀な映畫撮影技師約百五十人を二千軒に亙る獨ソ全戦線へ送り出した。

その中主なる者は、カルメン、ブニーモヴィチ、カサートキン、コマロフ、ネブイリーツキイ、リマリヨーフ、ヴィヒリヨーフ、グーセフ、トロヤノフスキイ、クリチエーフスキイ、コーガン、ミコーシヤ、ポポーフ、レヴィタ、ン、カプロフ等である。

### (イ) 戦争ニュース映畫

之等の撮影技師は、戦線に於て飛行機のキャピンの中から或は戦車の中から或は装甲車の中から或は驅逐艦の艦橋上から獨軍の砲火を冒し、一身を危険に曝しながら實戦の光景を撮影し始めた。中でも有名な撮影技師カルメンヤン

ニーモヴィチやカサートキン、トロヤノフスキイ、クリチエーフスキイの如きは、爆撃機や戦闘機や偵察機に同乗して獨軍の頭上から戦場を撮影してゐる。グーセフは四十日間被占領地帯に潜入し、敵軍の後方にあつてバルチザンの行動を撮影した。トロヤノフスキイとコーガンとは、英雄的なオデッサ防衛の光景を撮影し、ミコーシヤとレイマリヨーフとは、セバストーポリ防衛の挿話を撮影した。

之等の實戦撮影技師の狙ひ所は、赤色陸海軍將兵の勇敢な戦闘行動は勿論赤軍の大勝利や敵軍の敗退や卑怯や暴行などで、之を記録的に撮影して一面外國に赤軍の強力を宣傳して諸外國の對ソ信頼を高め、他面ソ聯人の愛國心と英雄主義とを鼓舞しようとするのであつた。

然し、酷寒は常に軍隊の行動を麻痺させるばかりでなく、一切の機械の運行をも麻痺させるものである。獨逸の宣傳映畫部長ヒツベル博士は、獨ソ戦線に酷寒が到來したため活動寫眞撮影機が動かさず、戦況を撮影することが出来ないと言つたさうであるが、ソ聯側では此の言葉を捉へ、これは獨逸が冬期の敗戦を國民に知らせたくないで、戦況を撮影せず、その辯明に酷寒を引き合ひに出したのである。で、實際には零下三十五度の酷寒中に於ても立派に撮影が出来る。映畫撮影技師レヴィタンは、零下三十五度の酷寒中に於て進行中の装甲列車の屋根の上で見事に撮影した。映畫撮影技師イェシュエーリンは、戦利品を満載した自動車に獨逸の撮影機を發見し、而もそれにはフィルムまでも入つてゐるので、零下三十六度の酷寒中に此の機械を以て撮影したところ、立派な映畫が得られた、などと宣傳してゐる。

斯くして撮影された生々しい戦争の光景を現はす戦争ニュース映畫は、直ちに後方へ送られて、三日に一本づゝの

割合で作製され、映畫館に現はれるのである。かうした戦争ニュース映畫は、今日まで既に百本に近い。

三〇

### (ロ) 日誌體映畫

此の雜報的戦争ニュース映畫の外に個々の戦争ニュース映畫と日誌體に編輯したものも現はれた。レニングラードのニュース撮影所は、對獨戰開始當初から『北方キノ日誌』といふやうなものを製作してゐる。此の日誌は勿論主として赤軍が如何にレニングラード市を防衛してゐるかを示すもので、歴史的記念物としても意義あるものであるとされてゐる。撮影技師の主なる者は、ベリヤーエフ、ボゴロフ、ブラジコフ、シモノフ、ウチーテリ等である。

又昨年十一月頃獨軍がモスクワを脅威した時には『モスクワ防衛』といふ映畫日誌が製作された。この映畫は、赤軍とモスクワ人とのモスクワ防衛状況を現はしたものである。

### (ハ) 攻撃「奪還」映畫

次に赤軍は處によつては漸次防衛から攻勢に轉じたといふので、今度は所謂「奪還」映畫なるものも現はれるやうになつた。その代表的なものは、ポポーフ、レヴィタン、カプロフ等の技師が撮影した『ロストフの解放』で、之は感激的な『映畫探訪』と稱せられてゐる。之に次いで更に映畫日誌『イストラ奪還』『クリン奪還』『ソルネチノゴールスク奪還』『ヤフローマ奪還』『ユフノフ奪還』『カリーニン奪還』等が作製映寫された。

映畫撮影技師等も赤軍の攻勢に勢ひを得、赤軍部隊がカルガ、ドロホーヴォ、マロヤロスラーヴエツ、モジヤイズ

ク等に突入するや酷寒の中に活動し、ヴェ・フロレンコなど零下三十七度の酷寒中にバラシユート降下部隊を撮影したが、その際長い間撮影機を酷寒中に曝して置くや破裂する怖れがあるので、彼は機械を自分の身體に付け、體温でこれを温めつゝその破裂を防いだといふやうな挿話が傳へられてゐる。殊に『モジヤイスク奪還』といふフィルムの子き零下三十八度乃至四十度の酷寒中で撮影されたものであるといふことである。

之等の映畫中には赤軍の攻撃の光景、雪中に倒れてゐる兵士、荒廢した市街、破壊された家屋、赤軍を歓迎してゐる住民などが撮影されてゐる。

### (ニ) 戦争映畫集

なほ斯くの如き戦争ニュース映畫の外に映畫臺本作者や映畫監督中には個々の戦争短尺映畫を一つの構想やストーリーにより藝術的に取り纏め、今次の戦争を主題とする藝術的な戦争映畫集を作製してゐる者もある。これは戦争藝術映畫ともいふべきもので、ソ聯の觀衆には非常に歓迎されてゐる。

此の戦争映畫集は、既に十集近く作製されてゐるが、各集の主人公或は幾集かに通ずる主人公は、ソヴェート映畫作品中の有名な主人公ストレルカ(エリ・オルロフの扮する)やマクシム(ベ・チルコフの演出する)やソヴェート文學作品中の有名な主人公である剛膽な兵卒シユヴェイク(ヴェ・カンツェリ演出の)等で、之等評判の映畫や作品の主人公がそのまゝ戦争を背景として戦線や銃後に於て大いに活躍し、國民の愛國心や英雄主義を煽るといふ仕組みで、戦争を民衆の興味に結びつける極めて巧妙な方法なのである。

ソ聯の戦時映畫政策

此の種戦争映画集は、昨年中には七集作製されたが、今年中には十五集作製される豫定になつてゐる。

### (ホ) 戦争物語映画

なほ今次對獨戦を題材としたものの中には戦争物語映画も作製されつゝあるが、最近シナリオ作製中のものは、コジツエフとトラウベルグ合作の『包圍圏内の町』、コルネイチューク作の『ウクライナ曠原のバルチザン』、カターエフ作の『オデッサ防衛』、カブレル作の『バルチザン』等である。

### (ハ) 對獨憎惡喚起映画

次にはヒットラー主義をことさら暴虐野蠻の極致として描寫する誹謗的なフィルムも作製されることになつてゐる之は赤軍や民衆の對獨憎惡心を喚起することを目的として計畫されてゐるのである。ソ聯側當局者等が獨軍のみを苦しめる筈であると思つてゐた各將軍は、平等に獨ソ兩軍を苦しめ、そのため赤軍は冬季嚴寒中に豫期の戦果を収めることが出来ず、大體に於て獨軍が守備の關係上撤收した箇處を占領して之を奪還した如く宣傳したに過ぎなかつた。

冬將軍の頼むに足りないことを覺つたソ聯當局者は、民衆や赤軍の對獨憎惡心と復讐心とを煽つて獨軍攻撃を行はなければならなくなつた。これは他面獨逸の占領地帶統治工作が漸次緒につき始め、白ロシア人やウクライナ人中に獨軍統治下にあることを喜ぶ傾向が顯著になつて來た結果でもある。獨軍は暴虐野蠻で、野獸以上である、婦女子に暴虐を加へ、赤軍の捕虜を慘殺し、焼き殺してゐる、村を焼き、家屋を破壊し、財物を掠奪するのは、獨軍の常習であ

る、非人道的獨軍は鬼畜に劣るとソ聯の新聞やラヂオは勿論外務人員長モロトフまでも内外に向つて度々大袈裟に宣傳泣訴してゐる。此の宣傳を更に映画を以て實證せんとするのが、此の對獨憎惡喚起映画作製の目的なのである。此の種の映画で既に作製され又は作製中のものは、グリフアンド及びアーツキン合作、ロシヤリ監督の『殺人者は道路へ出づ』、ヤベルトクド・ブレフト作、ブドーフキン監督の『ファシズムの面貌』などである。フェジン作、クレシヨーツ監督の『諸敵人』、ヤザーク及びビストルベル作、ペトロフ監督の『捕へ難きヤン』なども一種の對獨憎惡喚起映画でチエツコスロワキヤや諸國に於ける反ファシズム闘争を示すものである。

### (ト) 映画『獨軍の潰滅』

以上の如き各種の戦争映画中最近特にソ聯の新記録戦争映画として有名なものは、『モスクワ附近に於ける獨軍の潰滅』である。此の映画は十五名の映画撮影技師の撮影した實戦映画で、其の第一巻はモスクワが獨軍の攻撃の前に最も危険に陥つた昨年十月頃の獨ソ兩軍の攻防戦を現出したものである。

此の第一巻の映画面に現はれてゐるのは、モスクワの市民が市の内外に防塞を築いたり、塹壕を掘つたりして獨軍の攻撃に備へてゐる息詰るやうな不安と焦燥に掻き込まれたモスクワ市内や近郊の光景である。

次には赤軍の攻撃の有様や兵卒の突撃の光景や赤軍を指揮する將軍の悠揚として迫らざる態度や赤軍の爆撃機が敵軍の縱隊を爆撃する有様などが撮影されてゐる。

又赤軍が鹵獲した大砲や其他の武器で敵軍を砲撃し攻撃する場面と云はれるものもある。要するに戦線に於ける映

ソ聯の戦時映畫政策

畫撮影技師は、常に最前線部隊と行動を共にし、凡ゆる困苦を嘗め、砲火を浴び、身を以て戦争を體驗してのみ初めて赤軍の英雄的勳功を有りのまゝに觀衆に紹介することが出来るといふ見解から最前線部隊と共に敵軍の放棄した都市に入つて其の慘状や住民の歡迎の状況などをカメラに収めることを任務として此の映畫を作製したのである。

撮影技師カルメンは、敵軍撤退後數分間に或る一小村へ入つて、一ゴルホーズ農婦が十字を切つて赤軍を迎へる光景を撮影し、クルイロフやシナイデロフは、敵軍の後を追うてマクレッツ驛へ行き、數千人のゴルホーズ農民が燃える穀物倉を懸命に消火してゐる光景を撮影し、エリベルトは或る村の家の中で敵軍の捕虜となつた赤軍兵士が敵のために焼き殺されたと稱する場面を撮影し、ボブロフは敵軍を捕虜とする場面と稱するものを撮影してゐる。

ネブイリーツキイはクリンに於て敵軍が撤退の際遺棄したといふ自動車、戦車、砲彈、大砲等を撮影し、ベリヤークフはカリーニン奪還後二時間を経、クリン突入後數時間を経て飛行機に乗り、カリーニンからモスクワに通ずる道路上に敵軍の遺棄したと云ふ自動車、大砲、其他の武器が一面に散亂してゐる光景を撮影してゐる。

斯くして此の映畫は、一時危機に瀕したモスクワが如何にして敵軍の脅威から救はれたかといふことを實寫を以て示したと稱するもので、對内外宣傳用として多大の希望を以て作製されたものである。従つて此のフィルムはモスクワとノヴォシビルスクとトリビツシとの三箇處の印畫工場で復寫を行ひ、發聲、無音取り混ぜて八百本のコピーを作り、その半數を赤軍部隊に觀覽せしめ、その一部分をアメリカ、イギリス、イラン、土耳古等にも送り、ソ聯と赤軍との實力を誇大宣傳した。

#### 四、ロシア人と映畫宣傳の効果

ロシア人は元來非常に享樂的な國民である。長い間の酷烈な自然と専制政治との強壓下に生活して來た所爲でもあらうか、彼等は一刻でも享樂を忘れることがない。享樂のない生活は彼等にとつて無意義であつて、而も彼等の最も嫌惡し希望しないものは、無意義の生活である。ロシア人の生活は、意義といふ一線で限度附けられてゐるのである。そして彼等は如何なる犠牲を拂つても、此の意義の一線だけは生活に於て日々確保しなければならぬと思ひ、此の意義ある生活を建設するために闘争もし革命もし戦争もしして來たのである。

其處でロシア人はよく『もうこれ以上かうした生活は忍べない』と言ふ。即ち之は生活に於て意義の一線が確保し切れなくなり、これが破られようとする時に發する彼等の言葉で、この最低の生活限度が破られる時、ロシア人は初めて起ち上つて生活のために闘ひ始めるのである。

スターリンはロシア人のこの性質をよく承知してゐるので、彼は如何なる場合にも常にロシア人に生活の意義を説明することを忘れなかつた。又最低限度の享樂をロシア人に與へることを忘れなかつた。此の最低限度の享樂を與へるものは、現代では勿論映畫である。映畫は一面に於て民衆に享樂を與へると同時に他面に於て其の宣傳的效果により民衆を精神的に操縦し得る一石二鳥一舉兩得の武器である。

従つてソ聯邦に於ては如何なる場處にも又如何なる時にも映畫館は開かれてゐる。非常時にはなほ一層映畫館が必要である。民衆も亦困苦と不安と緊張とが強ければ強いだけ、これ等を打ち消して生活を有意義ならしめるために、

映畫を見たがる。つまり彼等は映畫による享樂によつて困苦と不安と緊張とを帳消にし、今日の生活を意義あらしめんとするのである。モスクワが獨軍の脅威下に曝され、モスクワ市上に毎夜獨逸爆撃機が飛來して爆彈の雨を降らした時にも市民は平気で映畫館へ押しかけ、映畫館だけは獨逸爆撃機の爆撃下にあつて常に開館されてゐたといふことである。ソ聯當局者等がソ聯人殊にロシア人の此の特性を利用し、映畫を以て愛國心の鼓吹、戰意昂揚の有力なる要具としてゐるのは、當然であるといはなければならない。

## 技術的進歩と民族の生活空間

一

技術的進歩、Technischer Fortschrittなるものは、そのままの技術的進歩 Fortschreiten der Technikなるものは比較にならぬ、それ以上のものであるし、民族の生活空間、Lebensraum des Volkesなるものも民族の生活してゐるそのままの空間とは比較にならぬ、より以上のものである。二つの強力な生活の事實が兩者の背後に潜んでゐることは先づ第一にこれらの事實を光に當ててみなければならぬ、すると次にわれわれの大なる現代ドイツの状態の理論的理解に對する鍵が經濟の點でも必ずや見つかるであらう。

先づ差當り生活空間について。空間と言ふと地球が想ひ浮べられる。地球についての説明は地理學がわれわれに與へてくれる。しかし地理學にとつては、さまざまな理由や目的で一杯な生活をもつてゐる民族も、やはりただ地球の部分的空間の内容に過ぎない。地理學は民族を空間から観る。生活空間となると、ところが逆に空間が民族から観られんとする。しかし一般に民族と空間との關係は如何に解かれるであらうか？ ところでこれは主として民族の技術が手懸りとなる。従つて民族と空間との間の求められる關係については、技術と空間との間の關係が極めて通りのい橋渡しをやつてくれる。

原始時代では技術も空間の極く微弱な征服者の役を演じたに過ぎない、例へば抛げて用ひる槍といつたやうな最初

の武器の遠隔作用を想つてもいい。當時はしかし極めて素朴な人間、原始人が採取した物にたよる窮迫した生活を送りながら空間を絶えず變へて彷徨してゐた。

技術が空間の馴致者となるまでに成熟するには、測り識れない長い時間が、かう云ふ状態に止まつたまま流れ去つたに違ひなかつた。そのための轉換となつたのは、前後を通じて他のあらゆる成功から一際擡んでた成功たる農耕 Feldbau であつた。この農耕と共に、定住性といふものが始つたが、同時に技術によつて無制限の活動圏 Wohnbereichs も拓かれた。

技術は空間を謂はば五つの方向に馴致する。最初のしつかりした建築物以來技術は空間を居住空間 Wohnraum として役立てるために敷地としてきちんと整へ、車寄せ、井戸その他を設ける。

更に圍ひ、壁、堤、溝と云ふあらゆるあらゆる建造物により、また防禦的地勢の利用により、技術は空間を防衛空間 Wehrraum とする役割に役立つやうにする。

技術は、有用植物の栽培と有用動物の飼育に必要な繁殖地を準備し、荒地を開墾し、排水或は灌漑することにより、空間を培養空間 Wachraum の役に立つよう強ひる。

原料の探索や採掘の過程では、技術は空間を採取空間 Fundraum とする役につける。

最後に、技術が空間の上に道路の網を投げかけ、また流れる河水をそのまま移動する道として利用することにより、空間は交通空間 Verkehrsraum とする役に立ち得る。

しかし技術は空間にこの五通りの貢献を強要しては居るが、その生活そのものは絶えず空間の支配 Gewalt des

Raumes の下に立つてゐる。生活の位置は空間に由来して屋敷村、市と云ふやうなそれ／＼の民族の部分になるし、全民族にとつてはその領土となる。この領土の氣候、その自然的な区分による部分的區劃、その自然的な交通路、その自然的な境界などによつて、空間は、多かれ少かれ、生活がどのやうに自己自身を形成するか、社会的、政治的、經濟的觀點に於て民族が如何なる形成された構造のものとなるかといふ生活の下圖を定める。五通りに生活に役立つ空間は、矢張り第一には斯うして生活を制御しつゝ形成空間 Gestaltungsraum といふ基礎となる。そこでつまり民族の生活空間は民族にとつて同時に居住、防衛、培養、採取、交通、形成空間である。

しかし技術が空間に於いて生活に五通りに役立ててゐるものは、確かにただ民族の自國空間 Eigenraum のみである。つまり實際には、民族なる共同體がまづ權力的に形成されて生ずる國家の主權領土である。この自國空間はしかし生活空間の單なる中核部分である。民族と空間との關係はその政治的境界で一切であらうか？ 斷じて然らず、自國空間以外に周圍全體になほ一民族にとつて自國以外の空間と云ふ自外空間 Fremdraum なるものが擴つてゐる。しかし自外空間には一般に境界がない。根本的に觀れば自國空間と自外空間とが一緒になつて謂はば地球を包攝する。ではとてすべての國民はこの地球を生活空間として共有してゐるのであらうか？ 見たところではそうらしい。事實は生活空間は、ひとが固有の生活をもつた民族を數へると同數だけの、そして全然異つた生活空間に地球を區分してゐる。これは容易に示しうる。

そこでやはり各民族にとつて、地球上に於ける異つた位置に即し、異つた大きさ異つた境界、國內に於ける異つた形成により、生活空間の中核に於いては全然異つた自國空間が成立つ。民族の固有技術もまたこの自國空間にその五

通りの貢献に於いて異つた遣り方を押付ける。加之、自國空間はそれぞれの民族により全然異つた自外空間に取圍まれてゐる。自國空間はまた彼にとつては遠方であるやうな異つた隣國をもつ、例へば諸國民の公道である海のごとこの部分を領有して居たり、或は全然領有しないにしても。

畢竟一民族の自國空間は或る獨自のものたること瞭かである、それは地勢や位置の上からと同様内容の上からも類例を見ない固有様式 *Unverwechselbar Eigenart* のものである。それぞれの國民はその全たく特殊な遣り方で空間を體驗する。こゝで直ぐ想起されることは、生活空間を助け手としてさらに三つの事實、國民の「生活根幹」、*「生活環境」*、「生活遺産」の三者を解明すべきではないか、と云ふことである。そうすれば始めて一民族が人間の共同生活にどのやうに引き入れられてゐるか、徹底的に際かとならう。

固有の生活をもつ民衆なるものは太古の先史時代まで遡つて存在して居り、そして既に早く彼等はその生活空間の問題を解決しなければならなかつた。ひとが若し、種族の保全と民族の生活程度の維持と共に謂はば全歴史を盈してゐるやうな、諸民族が生活空間を求める闘争を度外視するならば、かの空間問題の解決には二重の事柄が含まれてゐる、民族はその生活を空間に適合 *angepasst* させんと努めねばならなかつたこと、更に特にその技術の助力を俟つて、逆にまた空間を生活に適合させる要があつた。この交互の適合が民族のその生活空間への適應 *Einpassung des Volkes in seinen Lebensraum* を型とつくる。此處にわれわれの空間經濟的國家計畫の思想が現はれる。それは大體に於いてわれわれの民族がその生活空間への「至當な」適應を目指してゐるものである。

\*ゴットルは入用関連の四つの基礎を擧げてゐるが、その二つは外的に與へられるもので「生活空間」と「生活環境」である。

空間世界の地勢上の貢獻 *Flächlich Dienst* としては立地空間、培養空間、資源空間であり、位置上の貢獻 *Lagehafter Dienst* としては交通空間をあげてゐる。この立地空間は *Standraum* 他の箇所では居住空間とも呼ばれてゐるのだが、立地空間と云ふ場合なる産業上の立地を指すものではなく、社會形成體に對する立地をも意味して居り、従つて本體演では別に形成空間なる概念を立ててゐる。

\*この四つの概念はゴットル特異の重要な概念であり、ゴットル入門書（シュタイン、ゴットル經濟學入門、酒枝義旗「ドイツ生活經濟學」、福井孝治「生としての經濟」）には悉く解説があるのだが、生活根幹と生活遺産とは形成體の過古から與へられるものであり、根幹とは形成體の基礎たる成員を云ふ、環境とは形成體の非空間的な周圍としての社會を持し、その繼續の構造に於ける働きを云ふ、遺産とは廣く精神的及び物的の文化財を云ふものである。

一一

緒て次に技術的進歩について。それは決して何時でも既に出來上つてゐるといふものではない。技術的進歩は先づ或る成るもの、新しい技術、近代的な技術として、古い、それに先立つ技術と充分區別されるところの、かの技術と共に成るものである。この二つの技術間の轉換は大體一七五〇年から一八五〇年の間に遂行された。

舊技術は道具技術 *Werkzeugtechnik* であり、一方新技術は機械技術 *Maschinentchnik* である。といふのは、新技術が舊技術よりも一層優れたものを他にも尙多々持つてゐるにしても、恰度信仰に對する奇蹟の如く、やはり機械はこの新技術にとつて最愛の兒であるからである。

舊技術から新技術に移ると、その擔當者たる人間もやはり變化する。新技術は技術師技術 *Ingenieurtechnik* であるといふのが特徴である。この技術ではそれを精神的に運營することは、まさに創造的な場合にせよ、單に模倣か應用の場

合にせよ、既に活氣旺盛した職業となつてゐる。ところが舊技術は文字通り手工業技術 *Handwerktechnik* であつた。技術的創造の精神と實踐は、まだ手工業者ではひとつになつてゐた、つまり手工業者は謂はば當時獨特の技師であつた。そして能力の點で高度の飛躍が遂げられたやうな幸運な場合には、手工業者はそのうへさらに藝術家とも一致した。われわれはこの貴重なる三位一體を當時から仕事に祝福された創造のまつたく魔術的な世界に歸してゐる。斯かる舊技術は一般に仕事に恵まれた *Fertigkeit* といふ性質をもつてゐた。當時手工業者の一切の功名心は第一に出来上つた仕事の善さの *Reiz* を狙つてゐたといふのは、この舊技術の手段と方途、すなはち方法、は傳承の禁止、*Geheimnisse der Bereitung* のうちに在つた。しかしこの技術も生き生きとした年期奉公を通じて、親方から仲間の徒弟へと傳つてゆき、そしてこの徒弟が親方となるに及んで硬化した傳承の環は困じてしまふ。

この舊技術は決して實際的な家内工業的労働 *Gevorhohliche Arbeit* によつて全然とつてかはられはしなかつた。舊技術にあつただけの部門、謂はば手工業が細々ながら存在したし、それだけの種類の技術も、全たく互の垣を撤去されて、なほツンフトの秘傳の保護の下に隠されて存在してゐた。

かくてこの舊技術は何と云つても最も華やかな労働藝術 *Arbeitskunst* であつた。それは數へられぬ數世紀間の直接的労働經驗の結實であつた。貴重な結實、最近の技術にとつてさへ評價を定めがたいほどの結實、それはこの最近の培養源となつたものであつた。この手工業的能力と、獨創的な機械的形態の、これもまた劣らず評價を許さぬ能力と結合して、兩者が一緒になつて今日の技術の、力強い固有の生命、*Lebenskraft* を形づくつてゐる、これからして多くの偉大なものが生じ、かつ、それは近代自然科学によつて醇化され、豊穰となり、高度化された、そして素人にはとて

も魔術としか想へない業績をうるまでに至つた。

かの舊技術が如何に傳統的なものであつても、しかも前提條件さへ缺けてゐなければ、舊技術に於いても發明なるものが決して無かつた譯ではなかつた。まさにわれわれは當時の技術一般の牙城たるニュルンベルグを先頭に、われわれドイツの自由市の高き發明的業績を回顧して、誇りを感じうるものである。

しかしながら、當時創造的な技術によつて推進せしめられてゐたものは、その時代の硬化した生活秩序と衝突したばかりでなく、不斷に傳統の嚴しい網に捕へられてゐた。いまでは合理的な大量生産に化した最近の技術の只中にあつてさへ、傑出してゐる印刷術、昔の仕事に恵まれた技術のあらゆる長所を備へて、いまでも燦として輝く印刷術、當時の發明がこの光輝あるひとつからさへどれだけの結果が生じたらうか？ 依然としてそれから生れたものも手工業であつた、ツンフト秘傳の面被にこせせと禁じられた奇怪な魔法であつた。

しかしながら發明 *Erfindung* のみが決して、技術的更新の唯一の最善形式を意味するものではない。發明は創造的形能力によつて魂を吹きこまれた行爲であり、従つて人種的にも制約される。發明はまさしく、創造的形能力を遺傳的に享けたやうな優秀な民族にのみ許しの出でゐるものである。歴大な殘餘の人類は、發明をまつたくかの能力から引継いでゐない限り、著者が工夫 *Erfindung* と名付ける技術的更新の他の形式を頼りにするほかはない。それにはどんな事情があるだらうか？ 意識された新しいものが折々に課題として課せられてゐて創造を刺戟すると云ふのではなく、創造する者は單に技術的労働の過程にあつて、運よくひよつこりと出て來た新しいものを、その後それをしつかり押へるために在來より一層よいものとして認識する要があると云ふことは、鼻面を捉へるやうにして



氣付かせられることなのである。このやうな發明とともに、技術的創造のばつとしない自己完成といふものが實現する。このことは、「理知主義的」自己欺瞞にあつてのみ發明といふものを押しつけて考へうるやうな、かの一時代前の時代から最近の技術に至るまで當嵌る。發明といふものには今日でもなほ、謂はば發明の波擾ぐ流れの下に、更新の無言の底流が流れてゐるものである。

四四

今日から顧ると、舊技術は何か出来上つたもの、憩へるものとして目立つてゐる。それに反し、新技術は、「で」に精神的な動きを見せてゐる。何かあるとすぐに話題に上る。孰れにせよ、新技術はその成果の重大さを、方法や構成に於ける技術傳承禁止の完全な崩壞の故だと云ふ。それは絶えず技術的營みの實際的遂行に於ける仕分けや遣り口に執心しつゞける。この遂行に夢中になつて綿密な注意を向ける。新技術は仕事に恵まれたと云ふのではなく、遂行に、「念」な 「Vollzagedacht」 と云ふのが特質であり、休みなく技術的に合理的な方法を追求し、そしてまさしくそれを厥かに不斷に大規模な業績をあげるやうに持つてゆく。

新技術となつて始めて發明は凱歌を奏する。發明は個々ばらばらの挿話たることを熄めたが、技術はその結果、後には再び傳承禁止法の隋眠に陥つてゐる。發明といふことが今では一層内的な聯關をもつ不斷の進行過程となつてゐる、それでそこではすべてがすべてと係り合つてゐる。發明家も勿論まつたく營業的なものとして現はれてくる。結局、われわれの時代の「大工業的企業」の體系的發明事業といふ形では、技術的進歩は謂はば「ベルトコンヴェヤー」の上で仕事される。その進歩は何も彼も一緒に内的統一をもつた、技術の完結的な全體運動のうちに融けこんでしまふ。そこでこの新技術は本質に於いて、「進歩的な技術」として在ることになる。近代の技術家は技術をまづ根本から進歩と

して體驗し、新しいものを新しいが故に闘つて贏ちえんとするフアウスト的衝動のうちに心底から生きてゐる。

しかし斯うして新技術は單なる勞働技術を遙か高く凌駕した。精神的生活力中の最古のもの、風俗慣習と闘つて、新技術はその創造に對する極端な張りを振り拂つた。この精神的力のうち最も若いものとして、新技術は「いまや信仰、道徳、法律や、美術、文學、科學と活潑な張り合をやり、そして彼等のうち最も若いものに充ちたものとして強力に、時として脅威的な壓力で諸民族の生活のうちに壓しかかつてゐる」。

發明の永遠に前進する戰鬪部隊といふ形姿をとつて精神的力として解放された技術の重壓、これこそは技術的進歩の事實である。

\* 印刷術なる言葉そのものがドイツ語で die schwarze Kunst 不可解な技術であつた。

## 二

われわれの國の過去に於いて、生活空間の馴致者としての舊技術は、まだ本當に控へ目な働きぶりだつた。中世のドイツの上を翻んだ、いまのやうな飛行家がひとりも居ないのは残念である。若しそう云ふ飛行家が居れば、この最新の間克服技術を利用する者たる彼の眼にはまさに一目瞭然だつたに違ひない、村々はまだ島のやうに離れ々々になつて居り、街道は殆んど見當らず、小さな街はやうやく勃つたばかりでバラバラと撒かれた眞珠が碧の毛氈の上に嵌めこまれたみたいである。

これと較べると、新技術の出現した一、二世紀の間にわれわれドイツ民族の生活空間が克服された有様には實に法

技術的進歩と民族の生活空間

四五

外な感じにうたれる。技術的進歩の生活空間に及ぼす強力な作用を濃密に理論的に追求するといふことは、勿論魅力のあることであらう、それは嘗て筆者が、二三年前技術的進歩の理論なる立場から、また一五年前生活空間の立場から試みたときよりも、今日は遙か比較にならず興味のあるものであらう。しかしドイツ現代の状態に詳細に立ち入るとなると、その錯綜した諸側面の聯關を解きほごしてゆかねばならない。

生活空間に於ける技術的進歩の巨大な業績にもやはり重苦しい暗い影はつき纏つてゐる。問題になるのは技術専門家が決して免れることの出来ない技術の弊害、生活空間に於ける有害な混乱である。しかし現代のドイツは、この點でも廣く一般の蒙を開いてゐる。そのために此處で筆者は廻り道になるのだが、當の主題が要求するものとして、周知の事實に言及して置く。

新技術の突撃隊たる諸民族にあつては氣船や汽車の背後には、どうしても外國の原料に頼らざるを得ない、あれこれの工業が活動してゐる。従つて極めて重要な産業の空間的基礎は一民族にとつて他國の空間まで蔓つて居り、それに採取空間、培養空間なる役を演ぜしめる。

同時に工業は自國空間にあつて一定の地方に一塊りになる。大都市は居住空間に於ける業病として不健康な住宅の水腫れに膨れ上つてゐる。また他の地域は、色々な意圖から自國空間をさらに小じんまりした部分空間に整頓することの犠牲となつて荒廢してゐる。これが原因になつてまた財貨の交換は、ドイツの一端から他端に至るにさへ、交通空間を濫用して夥しい無駄道を通る。加之、また無制限に四方八方と擴つた交通路の結果時とともに國民食糧の物的基礎は段々と廣く自外空間に蔓つてゆく。このことは單に、國民の必要な食料は絶對に保證しなければならぬ防

衛空間を嘲笑するのみならず、その反動として、培養空間としての自國空間も解體してしまふ。それは別して生活を支へる國民の基礎層たる農民を窮乏せしめるが故に、國民の生活に苦痛な傷を負はせることになる。

總じて採取空間、培養空間の點で自外空間に蔓つて行くに隨つて、一國民はそれだけ自外空間に依存する、謂はば隸屬するやうになる。國內經濟の極めて重要な部面もやはり間接に他國の權力に委ねられることになる。

國民が持つてゐる遠隔空間 Fernräume、すなはち植民地といふ形の、附加的な居住空間、培養空間、採取空間を缺してゐるかぎり、上の事情は愈々激しく國民を壓迫する。植民地まで生活空間が押移つてゆく限り、この點から脅威される危険は全く根本的に減少する。なほ換言すれば、植民地は、一民族の生活の船に平穩なる航海を保證する巡邏船とも喩へられる。しかしながら他國の空間に隸屬してゐることと、自國空間の衰乏といふ壓迫的な重荷は、向上に努める國民が狭苦しくなり、おそくはさらに全く引千裂れた自國空間に縛りつけられ、苛酷な空間の壓迫のうちに詩人の言葉にある通り「土地なき民 Volk ohne Raum」として生活してゆかねばならぬかぎり、ぎりぎりのところまで達してしまふ。

生活空間に於けるあらゆる有害なる混乱からみれば、この混乱は既に技術的進歩の結果であると、ひとまづ言ひうるであらう。しかし技術的進歩がこれらの混乱に責任があるのだらうか？ まづこの問いに對する徹底的に根據ある否定を與へるとなると、技術的進歩と生活空間の間の關聯に充分深く突つこんで行かねばならず、そこから經濟に於ける今日のドイツの現状の理論的理解も得られるであらう。

そのためにはまづ第一に技術的進歩そのものと、その結果始めて可能な、生活過程の技術的仕上げ、der technische

Ausbau der Lebensvorsorge. 所謂生産とが濃密に區別されねばならぬ。

すべての技術は總じて欲つてゐる成果をどうかして實現する。Gewollte Erfolge erzwingbar zu machen と云ふことが肝心な問題なのである。そこで技術的進歩は個々の場合に、欲つてゐる成果が始めて實現しうるものとなつたか、例へば嘗つて鐵砲、電話、懐中時計などの發明によつて、また近頃では蒸氣機關、人造肥料、飛行機、ラヂオなどの發明によつてのごとく、或は顯微鏡に超顯微鏡が加はるとか、在來の自動車にさらに性能の高い新式のものが増はるとか云ふふうには、欲つてゐる成果が在來既にあつたものよりも一層よく強要しうるやうになるとかいふことに基いてゐる。しかし發明そのものではないつても單にその助けで實際の生活に干渉すると云ふ可能性が生ずるのみである。この干渉は、更新が既にその實際の適用と云ふことになつて始めて實現される、或は普通に言ひ慣はされてゐるやうに、この適用がまづ持ちこまれなければならない。全事態及びその遠い結果に於いても旨くゆくか不味くゆくかは、やはりこの點に懸つてゐるのである。しかし決して技術的進歩そのものには責任も咎もあるものではない。ひとがこの明日に異つてゐるものを不注意にも技術と生活に於ける混合の濁つたまぜものに捏ねあけて、そしてこのまぜものをそのまま進歩と名付ける限りに於いてはじめて、以上のやうな誤つた責任轉嫁に思ひつくだのである。

・この二著とは一九一四年の「經濟と技術」、一九二五年の「生活としての經濟」を指すのであらう。

#### 四

しかしながら技術的進歩の結果としての、生活過程の技術的仕上げについて、つまり、更新の實地への適用につい

て決断を下す者は誰であらうか？ この決定を最後の決断まですべて、この技術的仕上げで直接儲かるやうなそれに関係してゐる連中に委せて置くわけには行かない、すなはち工場、兵器廠、或は科學の研究室、その實驗所。若しそうすれば勝手な要求でこつたがへし、自分達自身と一緒に共同生活を打毀してしまふだらう。如何しても最後の決断は經濟の手に在るのである。勿論この場合經濟とは、ドイツの哀むべき日常用語法に従ふやうな、單なる企業經營、つまり事業界を意味してはならない。諸人用 *rodgers* に對する判事の役は、共同生活の民族への形成のひとつとしての經濟の一部でしかない。經濟といふ理念に相應しいことは、全體への關係に眼をつけてそれぞれ個々の入用を、それが結果全體の健全さを加へる、竟り國民の生活維持に役立つやうに決断が下されるといふことである。經濟の理念がこう云ふものとすれば、その決断が事實上何人の掌中にあるか、そして如何なる規程に従つて宣告されるかは、當然經濟の現實性に屬することである。孰れにせよ、ひととは生活過程の技術的仕上げ一切の過程を、經濟によつてしかじかに左右される、謂はば從つて舵とられるひとつの流れと同じに見ることが出来る。

しかし技術的進歩そのものの事情は如何であらうか？ 技術はその進歩に關した事柄では全然自立的なものであらうか？ そうとすると、そこで經濟にとつて發明はその都度まつたく天から降つてくるものとならう、天才といふ天からにせよ、自然科學といふ天からにせよ。そうなるは何はともあれ、經濟は出來上りましたと差出される發明で、ひとつは受けとり、ひとつは投げかへすと云ふボール遊びも出來ると云ふものである。

ところで、眞實時宜に適さない發明とともに國民にとつて重要な發明もまた可成りに抹殺されてゐるのである、ひととは成程、從來效力を持つて來た曖昧な法律に準據して、パテントを處理することが出来る。しかしまたこのぼんやり

した特許法の條文なるものは、經濟が決して技術的進歩の結果としての技術的仕上げのみを舵とするものではない、否それどころか、この技術的進歩そのものをも經濟は舵とすることが出来ることと關聯してゐる。

五〇

しかしそれは如何にして可能であらうか？一體創造的形能力、すなはち天才が他から命令されるであらうか？確かにそんなことはない、その神的な火花は常に民族の深きところから發するものであり、その都度の發明の中核に潜んでゐる創造的な思ひつきは、たとへばどれほど多くのそれ以前の發明の精神的絲を織りこんでゐるにしても、民族の深きところから燐き出るのである。しかし發明と同時にそれですぐさま實際生活への干渉、すなはち技術的仕上げが實現されるといふことが妙いのと同時に、この燐きと同時にそれですぐさま發明が出来るといふことも極めて妙いものである。發明が成熟するまでには、妙くとも第一流の發明にあつては、さらに犠牲に充ちた、苦勞の多い實驗の續き、考査、改造が割りこんでくる、そしておそくはさらにあれこれの追加的な發明さへ必要となる。典型的な一例をあげて置かう。ルドルフ・ディーゼルは既にミュンヘン大學の學生時代にかの大規模な思ひつきに恵まれた。しかしディーゼル・モーターがパテントを取りうる、Daimlerがやうになるまでには、長い年月の勤勉な努力を要した、そして斯うなつてさらにインジケートが協力者として現はれ、様々の勞苦に對し數百萬金を支拂つて始めて企業化しうるまで成熟させるに至つた。そこでまた再度生産費と危險に對する莫大な投資がなされ、この新發明の導入が始つたのである。しかしこれは今日でもなほ多く繰返されてゐる、何故ならばディーゼルの輝かしい成功は益、新領域を求めては、その應用を見出してゐるからである。しかし若しわれわれのグーテンベルグにおいて嘗つてマイソンの慈善家フストが發明を貫徹さすべく助力する妻がなかつたとしたら、このジェイムス・ワットにも比すべき發

明家も企業家プルトン同様の後盾を求められなかつたのではないか？ 寔に、發明と云ふ荆の道は苦しい犠牲で鋪きつめられて居り、しかも途半ばにして中絶するのが、大抵の發明家の悲劇なのである。

だがさて如何なる種類、如何なる形式にせよ、ともあれ、經濟は發明に無くては濟まない補給を與へねばならないのであるから、従つて經濟は技術的進歩そのものに謂はゞ手綱をつけてゐる。これが經濟によるその舵取り可能にしてゐる。この舵取りを實現しようとする動因は明白である。技術的仕上げの舵取りに従つて、それぞれ與へられた生活狀況のもとに、技術的進歩に於ける正しい入用が生ずる。この進歩は常に一定の方向に働きかけて、*technical* 換言すれば、ある一定の發明が有用 *useful* となる。そこで技術的精神的全體運動として、技術的進歩そのものの舵取りもその方向へ向つてゆく。

そこで大發明は本常に旨い時機に出現するやうになつてゐるものだといふ見かけだけの驚異も起るわけなのである。數千のバテント、遂には數百萬のバテントをとつた無数の發明が、彼等とその企業化から引離してゐる深い溝を前にして謂はゞ跳びこす機會を俟つてゐる。たゞある進歩へのしかじかの入用が熾烈になつてさへくれば、經濟は堪んで必要な犠牲を供し、それぞれ有用な發明をしてかの溝を跳びこす手助けをする。

經濟が單に技術的進歩の結果としての技術的仕上げのみならず、技術的進歩そのものを舵取りうるものであると云ふ、一般の見解には迂遠な事象には説明が必要であつた。しかし技術的進歩と生活空間との關係に立ち還るまへになほまだ問題がある。一體かの二重の、とは云へ無論緊密に關聯した舵取りは事實何者の手中にあり、如何なる規準に従つて舵とられるのであるか？

在來この舵とりが何者の手中にあつたか、それについては疑問の餘地はない。この舵とりは先づ一番手近に工業的企業家階級に任せられて居り、その際所謂儲かることが規準の役割をする。それは工業的企業の収益高がその舵取りによつて増加するやうに舵とられることであるとも言へよう。ところで一番遠いところ、従つて謂はゞ舵とりの最も遠い端では銀行の手が働く、そしてこの場合規準は利子追求の資本家の立場から最高と考へられる、最高の資本利用である。

斯うした遣り方の舵取りはそれを根本的な間違ひではなかつたか？ われわれは實際の例を引いてみよう。ひとつの發明を工業の領域へ利用するために實地に使用するためには、企業家はそうすることに定つた経営工場を工業的に好適な地方、或は都市に重ねて移轉せしめる。このことからの直接の結果は何であらうか？ その移轉には交通と隣接地区の點に關しても企業の遂行上の何か利益が狙はれるが故に、この企業は収益高が増加する。その収益高が高まれば、國家にとつての租税源としても改善されるし、また従業員にとつての収入源としても改善され、更に、顧客に一層廉價に供給し得るかぎり、入用調達bedarfの源泉としても改善される。これらすべては確かに國民の生活維持に矛盾するものではない。しかし免れ得ないことは、そのさらに先の結果である、それはまたもや強化された工業の集結といふ形において、居住地の貧窮化から始まつて果ては謂はゞ防衛空間まで一層激しく傷つけられるに至る。従つてかの諍ふべからざる利益も、重大な損失を支拂つて購はれたものとなる。竟り、収益への自身権能を賦與された努力と収益への舵とりが禍を惹き起すといふのではなく、かへつてその際國民が如何成りゆくかを顧慮せず、斯うした規準に従つてのみ行動する亂暴な、一面性の故なのである。

從來の事情は廣く平均してみれば斯うであつた、それは假令無軌道な利潤追求者の惡例以外に、國民にとつて利益となるものとの調和を保たんと意識的に試みつゝ、企業家が収益への努力をなすやうな榮譽ある例が屢々あつたとしても。

では如何したらよいのか？ 工業界や銀行界の企業家連は、技術的進歩と仕上げの舵取りから除外されるべきであらうか？ そうなると、經濟生活に於ける形成者としての彼等の働きを全然萎縮させるのと同断であらう。これは、マルクス主義の机上社會主義が企業家をそのまま全部抹殺せんと要求したこと、全くあまりかけ離れたものではあるまい。斯かる經濟生活に於ける人格の支配の根柢はやはり直ぐさま指導者原理 Führerprinzip と業績原理 Leistungsprinzip に矛盾するであらう。

さてわれわれのドイツにあつては斯うした事情が、如何なる遣り方で避けられてゐるのか、そして従つて結局は、技術的進歩と生活空間の關係も、如何にして正しい秩序を保つてゐるのか？ これを或る稍高い觀點から説明するために、最後に廣般な歴史的聯關の中へ暫く踏み入ることを許して戴かう。

## 五

極めて舊い時代から遠隔の商賣 Fernhandel が、ともあれ企業的に或は企業に類似した遣り方で行はれてゐたことは推察しうる。古代に於いてはそれがどれほど狹隘な範圍に止まつたにしても、國から國へと主に貴金屬などを動かしては、常に尠くともその最外部の周邊では、冷靜に算計的、純粹に理性的な取引をやる者、まさに商人が、舊い

厳しく傳統的な經濟と既に對立してゐた。この商人と當時の經濟との鋭い對立は、ルネッサンス時代に入つて、商人が入用調達の眞只中に、すなはち生産の只中に、大膽な飛躍を試みたとき、どれほど震撼的な意義のものとなつたかは推察し得よう。丁度これと共に舊經濟から新經濟への偉大な轉換が始つたのだつた。經濟學科書はなるほどジェームス・ワットを所謂蒸氣機關の發明者として新經濟の創造者に捉えるのが慣はしであるが、事實ワットはそれを、勿論天才的な造り方ではあるが、單に改善したに過ぎなかつた。しかし彼が出る二世紀乃至三世紀までに、既に西歐に於いては新經濟の誕生が済んでゐたのである、まさに決定的に生産にさへ企業的な營業が干渉することによつて、鑛山業に於ける先例を除くと、これは周知の通り出版業と云ふ形式から始つた。おそらく舊經濟の没落が崩し始めたために既に窮迫してゐた多くの手工業、或は一地方のあれこれの家内工業は、一定商品を大市場に大量に販賣するとは云ふ大膽な行爲を企てた者の商業的指導に委ねられた。しかし、斯うして既に生産の内部まで潛入した企業なるものは、収益によつて生きるものである。この収益を決定するものは、市場に於ける大規模の活躍ばかりでなく、また生産の方面からも生産の遂行に於けるやりかたである。此の場合に出費と結果との間に、製品の生産費と賣上との間に惠まれた關係が現はれるとする。斯うして生産の内部に遂行の入念さが入りこむで、舊技術には縁のなかつた、費用を節約し、技術的に理性的な、すなはち合理的な生産への努力がなされた。勿論一時的には、長い回數をかけた間の熟練が利益となつたり、出版業者が顧客に供給すべきものをつくる原料、補助原料の大量購入が利益になつたりしたこともあつたのだが、ところが出版業者が同一の市場に供給することから、忽ち競争が熾えたり、そのためこの生産改良は決して中絶し得ず、謂はば合理的なもの始めて合理的なものまでに至らざるを得なくなつた！

の「合理化」と云ふ言葉は、生活上から正しいものに對するある思慮深い見解がその名譽回復を企てるまで、長い間われ／＼に禁ぜられてゐたのが、わたくしはわれ／＼ドイツの實に訝はしい「合理化時代」なるものが出現しそれからこの言葉が世間的となつた十年前に既に自己の理論の中に導入した者として使用しても差支へあるまい。

その遠い昔において點火されたものは、かの驚嘆すべき、數世紀にわたる合理化の過程であり、これは中世紀の手工業者の素朴な工場から今日の工業的大經營の壯觀な工場まで一貫して居り、従つて全經濟生活の工業化と云ふ意味に於いて全經濟生活にとつて様式を築くものとなつた。

しかしこの根本的な轉換は、その第二章に入つてさへ技術そのものに關しては素通りだつた。ここでは唯分散した小經營が、技術的理性の標語のものと云へ、大經營に解消したが、しかし依然として仕事は手でなされ、全然舊道具技術の枠内にあつた。時としては數世紀後になるこの偉大な轉換過程の第三章に入つて始めて、技術にも辛つと方法や造り口の方面に遂行の入念さが接木された。この大經營が機械化の方向に向いて始めて急激に新技術と接觸することになつたのである！

そこでひとが、歴史的にこの新技術の中にも織りこまれてゐる精神的な絲を決定的なその波及作用の點から見て、遙かに希臘まで手繰つて行き或は傍系としてスペインのアラビ人まで遡つても、技術の近代化への本來の動向は、やはり工業的大經營の最近の技術的改良、謂はゞ機械への叫びに發してゐた。

このことから何が結論されるであらうか？ この新技術はその誕生からして直ちに、儲け、次第の、かの技術的進歩と仕上げの舵取りと道連れである！ とは云へ生れつきの缺陷を云々してみても仕様がなない。蓋しこの規準に従つ

て極端に一面的に舵取るといふこと、それは後になつて始めて付け加はつたものであつた。

五六

しかしかの決定的な、企業が生産への干渉は決して歴史上の偶然ではなく、近代史上深い意義をもつものだつた。この干渉はそもそも當時の偉大な時代の轉換、この時代の人格性、*Personlichkeit* の發見と關聯してゐた。この轉換が、従つて經濟の只中にもひとつの作用圏を開いたとも言ひうるであらう。ところが時代が後になるに従つて、次第に自己への溺愛に捉はれて、人格の立派な權限は、個人 *Individualismus* の僭越な權限、あらゆる民族的、國家的羈絆から解放された自己をまつたく自律的と思ひこんでゐる自己の僭越な權限に變じてしまひ、斯うして收益への努力と收益への舵取りは何か盲目的の原則らしきものに衰退し、従つて經濟そのものも資本主義に退化してしまつた。此處に、二つの偉大な時代轉換が數世紀を隔て、手を差伸べてゐる。ひとつは當時の、人格を標語とする轉換で、他はわれわれドイツの轉換、それはあらゆる熱情を以つて共同体を主張してゐるにも拘らず、人格の權限を最高度まで、われわれの民族の人格にまで高く掲げてゐる。當時の新しい人間は新しい經濟に導入されたが、この經濟が後になつて資本主義にまで退化した點では責任はなかつた。この資本主義を蟬脱して再び新しいドイツの人間は經濟を指導する、彼は企業家として彼の構成體が國民經濟に奉仕することを自覺して居る、企業家としてそしてこの國民經濟はそれとしてまた只民族の下婢たることにのみその窮極の意義を充してゐる。彼は企業家として收益への、その權能ある努力を、國民共同体に由來する一切の要請との一致を保つべく努力してゐる企業家として。彼の役員を指導して純粹の共同体を實現せんと志す企業家として。

これはわれわれにとつて、神聖にして確固たる信念の問題である。しかし第一に、新たなドイツの人間を創るた

めの普及しつゝある教育がそれを實現する以前に、早くも時代の苦難が襲つてゐる。第二に、解決すべき課題の範圍は自己自身を頼る他ない企業家の力を遙かに越えてゐる。斯くては企業家は、必須の高度の空間技術 *Raumkunst* によつて、われわれの民族をその生活空間に正しく適合せしめるやうに働くために必要なる際限もない準備工作に、決して耐へ得ないであらう。また、企業家がかの技術的進歩と仕上げの舵取りに於いて與へられる僅かばかりのぼつんぼつんとした參劃では、絶對止むを得ない最短期間以内に決してわれわれの民族にとつて經濟的自由を獲得し得ないであらう。

後の點では、急速なそして鐵の如き努力を課せられた、われわれの民族の課題として、強力な四箇年計畫が専ら問題である。先の點では、問題は、空間經濟的國土計畫 *Raumwirtschaftliche Reichsplanung* と云ふ、高い意義をもつがしかし長期間に課せられた課題を廻つてゐる。

この最後の吟味は、自らわたくしの全論證の結論へ導くものである。すなはちその課題の解決に關する限り、わたくしは、上述の二つの偉大な課題はたとへ技術といふ一面のみからであつても、理論的に次のやうに解されうものと信ずるすなはち國家と、そしてその背後に政策が技術的進歩に於ける舵とりと生産の技術的仕上げの舵とりに加はること、そしてその際従業者ともども勿論企業家も除外されるものではないこと。若しこれが常に前提されるならば、この企業家は其の働きによつて政治的形成意志に歓迎されるし、彼のやることは、共同体を肯定し、民族的に正しいものとなる。

かの技術的進歩と仕上げの舵とり、企業家を添加することによつて、及びおよそこれに關聯する一切によつて、  
技術的進歩と民族の生活空間

五七

國家は、民族一般の擁護者として、やはりその經濟をも支配すべき使命があると云ふ點で、確かに緊急な一歩を進めたことになる。これに較べ今日では既に克服されてしまつた經濟學は、民族と國家は除外して、全然財貨獨自の世界としての經濟の「自己法則性」といふ妄想の經濟學は、勿論役割を了へてしまつた。ところが、經濟に對するあらゆる國家的支配の、この理論的拒否の背後には、政黨と利害關係者による、その誤れる支配がしのびこんでゐたのである。われわれは、このわれわれの會議の席上に於いて最責任者の口から、國家が技術的進歩と仕上げの舵とを實踐的に如何に扱ふかと云ふ最適切な實例を傾聴したので、わたくしはかかる實例について云はれたことをさらに證明する勞を省いてきた。われわれの何か新しい製作、原料、そのお蔭で物的基礎における多くのものがわれわれの民族の自國空間内に産出されるが、これはまたライヒと食糧團の努力したところであるが、その實例を引く要もないし、また最も美しい實例、われわれのドイツのフューラーの自動車専用道路を引く要もない。

實例の代りとして、彼フューラーの、いまなほわれわれにすべての感激に充ちて記憶のうちにあるひとつの言葉、それをわたくしの説明の切上げのために引くことを許されたい。

ドイツの現代から、そしてあらゆるドイツの將來に互つて、一體、技術的進歩と仕上げに關する、かの舵は如何に轉回されるか？ 今後は義務ある國民經濟の精神においてこそ舵とられるものである。

そしてわれわれは、われわれの民族の生活空間のために、ドイツの技術から何を期待するであらうか？ まさしく民法に義務付けられた技術的進歩こそ、それである。

\*ゴットルが始めて「合理化」なる用語を用ひ、かつ合理化の理論を扱つたのは、一九一四年刊の『經濟と技術』に於いて

あり、ドイツにおいて合理化が唱導され始めたのが、二〇年頃としても産業合理化が經濟に浸潤し始めたのは、二四五

附記

こゝに譯出した小論説は、

Friedrich v. Gottl = Ochsenfeld  
"Theorie blickt in die Zeit"

中に含まれるもので、一九三七年、ドイツ經濟學大會に於けるゴットルの講演である。

ゴットルの經濟學が、その理論的研究における經濟基礎論、經濟形態論、經濟構成論なる三段階中、今日まで彼の所説は主として基礎論のみを展開してゐるものであり、彼の理論の不確性を豫言すること批判者もこの國には現はれてゐるし、また彼の理論がナチスの經濟政策と如何なる關係に立つのか、抑、彼の理論なるものが今日の經濟現象への妥當性、従つて政策への應用が可能であらうかといふ疑問が存してゐる。

この小論はこれらに對するともあれ、ひとつの解答とならないであらうか。

しかしゴットルは、理論はドイツの現狀にあつても存在の權利を主張し得ると云つてゐるし、この謂はゞ時事問題を扱つた小論も彼の所謂形成體に即した思惟による經濟學の一應の理解が前提されてゐる。その點で満足なる譯註は無論譯者の能力以上のことなので、僅かに二三のものを附して置いたが、他の優れた紹介書に充分盡されてゐるものである。

しかしまたこの國の紹介に多い特異なゴットルの譯語を避けることも努めてみた。ゴットルの譯語にはまだ定譯があるとも云へないであらうし、彼の經濟學が所謂専門的な言葉の支配に對する攻撃から出發したとともに、彼の思考にはドイツ現代哲學の解釋學的現象學に親しいところがあるからである。(大塚)



資料情報

英 國

統後努力の推進

英首相の辯明と濠洲首相の指摘

現下戦争の進捗については一九四一年六月十日の議會に於ても、クリート島戦について批判が行はれ、シリア進出の報道も之を踏過せしむるに足らなかつた。首相チャーチルも云ふたやうに、素人批評家が現實の作戦行動を批判するのは困難で、今年の近東作戦に運用せる諸資源の充當、利用についての種々の缺陷も、實際にその局に當りたる軍人、政治家にして始めて決定的の判断を下し得るのである。近來の新現象として種々の重要な情報、英本國內に識らるゝに先だつて濠洲更に或は米國方面にすら知らるゝことによつてか、濠洲首相メンジエスはクリート島に於ける英軍の缺陷は戦闘機の不足であり、その原因は之が該島への輸送用船舶の不足であると指摘してゐる。然し「英本國がドイツの上陸作戦企圖に備ふる目的を以て、必要以

上の飛行機を本國に保留したるため濠洲の出征軍は充分なる空軍の支持を得なかつた」との反對黨たる労働黨の非難に對しては、首相メンジエは之を當らざるものとして否定した。

批評家の知り得る範圍

かくの如きは固より批評家の確實に断定し得ざる事項である。困難は果して飛行場の不足に存するか、飛行機の不足に存するか、英本國と他の戦線への高射砲の配置は如何、利用可能と推定されし戦闘機總数は如何、敵の英本國上陸作戦企圖に對應するに要するに戦闘機数は如何、近東戦の爲に配備せる戦闘機数は如何、これらは凡て批評家の知り得ざる所で、彼等の知り得る所は、ギリシヤ作戦、クリート作戦に於て何れも航空機の不足すること、その製作数が、米國の増援数を併せて、豫定以上に達せりと政府より公表されたことと、竝にクリート島は、六ヶ月以前より占領して守備を固めたことであるから、必ず守り得べしと政府側に於て公言せることである。かつては

英 國

是等の評者は、ドイツ軍の來攻に對して當局者がいつもながら之に對應するに必要なる措置の規模を過小に見積つたものではなからうか。當路者の構想目標は、軍需生産の場合にせよ、作戰計畫の場合にせよ、あまりにも初歩的に過ぐるのではあるまいか。聯合軍は今なほ敵軍の周到なる計畫と壓倒的なる猛撃とに對應し得ないのではあるまいかなどと疑つて見たくもなるのである。とは云へば彼等評者と雖も、ギリシヤに於てにせよ、クリトに於てにせよ、英國が現實に運用可能なりし兵力を以て、何等か別途の用兵によりたる場合は格段の成果を擧げ得たる筈なりとは、しかく容易には確信し得まい。たゞ英國が陸戰に於て採擇せる方策は、到底現代兵戰の要求を充足せるものと云ひ得ず、敵は常に味方以上に敏速に、味方以上の地域に互つて活動し、密に地の利を制するのみならず、兵數、資材、共に明白に優位を占め、他の何ものよりもこの優越を以て勝利を博せりと見るは、決して單なる推測ではあるまい。實に、チャーチル首相の評者に答へたる唯一の根據は、「我が英國は今なほ海外の敵兵を撃滅するに足るだけの物質力を確保するに至らざる」事實に存すと云ひ得よう。

#### 編組は那邊に

かゝる軍事的過誤の根本は生産政策と經濟政策とである。更に云へば、(一)陸軍と空軍とが聯絡を缺いてゐること、(二)飛行場の構築と防備とが不完全であること、(三)空軍部隊の集中運用が不如意であることは疑ふ餘地がない。チャーチル首相は實に存すと云ひ得よう。

#### 爲政者細心に過ぐ

然しかくの如きことは決して戰時大國民の眞の面目でもなければ、自由を重んじ決心を固めたる國民の眞の態度を反映するものでもない。寧ろ一には、政治家の心理に伏在する疑懼、即ち選挙民に對して困難、吾憫を要望することの疑懼、年來の爭奪により漸く獲得せしめたる特典を剝奪するには躊躇せずやとの疑懼等に起因するものであり、又一には、實業界、労働界の、而して又政黨、政派の巨頭に第二の天性となれる交換條件要望の習慣に起因するものである。蓋し協力の要諦は妥協であり、その標語は代償であるのが通例である。

#### 動員今尚ほ不十分

而して又他方には、吾人の戰爭努力を促進する爲に、爲し得る凡てを盡しつゝありと信する人々もある。彼等は戰爭の當初に於て、若干の急進的經濟的行動を取るべしとの提言に對して、「その必要は認められず、寧ろドイツこそ先に崩壊すべし」と答へたる閣内某高官の亞流である。彼等は云ふ「ローマは一日にして成れるに非ず、今次の戰爭勃發の際に於ける英軍隊の裝備は甚だ不十分であり、ダンケルク戰當時なほ然り、以後この立ち後れを挽回すべき餘裕がなかつたのである」と。然り、「吾人

英國

陸軍協力兵團の航空機の戰術的統率を陸軍の諸指揮官に與へんことを約束して一般の贊成を得、又かゝる改革を更に擴張して、尙一層強化すべき該兵團の廣汎なる戰術的使用をも爲さしむべきかといふ問題をさへ上議せしめた。然れども英國に最初の戰捷を獲得せしめ、イタリヤ兵を東部アフリカより驅逐し、當該方面の海面を制壓せしめたる我が用兵指揮官をして、その背後の爲政者、國民より與へられたる援助が果して充分なりしや又は現に充分なるやを答へしむるに先だち、遽にその無策、凡庸を糾弾するは不公平でもあり證なきことでもある。謂ゆる彼等の過誤、拙劣なるもの多きは、彼等に對する兵力、兵資の補充不十分なりし故を以て、よし全然寛恕し得ずとするも少なくとも之を諒察することの出來難くないものである。着衣の仕立の巧妙は固より望ましいが、箱丈の充分なることはそれ以上にも望ましいことである。

#### 編組、努力なほ不十分

濱洲メンジース首相はまづ頂門の一針とも云ふべき批評を下した。「曰く飛行機が不足、曰く軍艦が不足。と併し吾人はなほ怪しむのであるが、我國の諸軍需品の生産は既にその最大の能力を發揮してゐるのであらうか」と。英人はその溺没せる致命的危險より脱却するにふさはしからざる生活、動勢に今なほ終始し居れりとの非難は決して無稽の言として拒否し去るを得ない。幾多の軍需工場はその現有計畫を實施するに於てさへ工具に不足してゐながら、他方、幾百萬の男女に充分に整理し

は今後なほ幾ヶ月か我が軍隊を裝備不足の状態に置かねばならぬ。先般、議會議事に於てリス・スミスも云ふたやうに、抄々しく進展せざる目下の戰況は單なる防戦に甘んぜざる交戦力を充實するまでは、斷乎たる措置を取ること躊躇せしめる。しかしながら、かゝる交戦力不充實の責は、決して何時までも過ぎ去れる爲政者の責に歸し得べきものではない。とは云へば現政府は國民の經濟資源を動員すべく一年前に廣汎なる權能を議會より附與されたが、その範圍内に於て爲し得る凡てを爲し終つたとは云ひ得ないであらう。軍需生産が今日既に幾何の額に達し、更に幾何に達すべきことを目標としつゝあるかは、たゞ閣員のみぞ知つてゐることであるが、努力資源にせよ、機械設備にせよ、未だ充分に利用されず、又は浪費されつゝあるものが頗る多いことは、要路の大官を待たずして指摘し得ることである。

#### 促進、改善の餘地尚ほ大

たとへばタンクの供給、配備の職責とする者を完全に満足せしめることは固より不可能であり、米國より供給されたる航空機の部分品の組立作業にも停滯の事實はある。この際に局外者の知り得ざる軍需生産額の大小を局外者が論ずるは無益である。たゞその過去の實績の大小如何に拘はらず、更に之を増大すべきことこそ狙ひであらねばならぬ。かゝる状態への促進法の一は、國家必需のものなりと明白に云ひ得ざる種々の事業に従事し居る男女に、その專任、非專任、有給、無給の何れを問は

ず、呼召に應じて、直接軍需事業に従事し、又は従事すべく訓練を受くべき義務を負はしむるにあらう。ベヴィン労働大臣の管掌する動員方策は登録も完備し、その要項も徹底してあるから、たとへば差し當り現在以上の労働力の要求なしとするも——否、實際はその要求がある、六ヶ月を待たずして必ずその要求がある——今よりその呼召を完了し、訓練し、待期せしめねばならぬ。轉業せしめることも新に訓練することも不要なる従業員は至る所に發見し得る。車庫と云ひ事業工場と云ひ、鐵道と云ひ、個別的に小規模に之に望むを止めて、總括的に集中的に之に望んだらば、更に更に多くの軍需に對し労働力を供出し得たであらうことは明白である。

#### この餘地の充實こそは

事を望むには自から限度がなければならぬ。一國の生産力は利用し得べき人力、設備、原料によりて限定される。さればこそあらゆる男女を軍需工業に召致し、あらゆる機械設備を運轉し、あらゆる原料の軍事外の用途を節約し、戦時經濟の全機構を船腹節約の基調の上に立てる。生産政策、海運政策には努力、改善の餘地ありと云ふは、既に當局が達成しつゝある大きな成果を、見るに足らずと云ふのでは決してない。たとへば更に業績に、はた方策になほ一段の進展を見ることを得ば、英國の大資源を、敵國の大武裝に當面せしめて、果敢なる武人の剛勇と相雁行せしむる日を一日も早からしめ得んと云ふに止まる。

#### 海運政策や食糧政策の例

この大生産の基調を爲すものは實に海運である。もし船腹が不足しないならば、原料村絶の故を以て生産を凝滞せしめることはないであらう。米國、カナダの完成品に英國の所産を増援せしむるも海運であり、遠隔の戦線との兵站聯絡を爲すも海運であり、近東軍の裝備に大なる制限を餘儀なくせしめたるも、海運の不如意である。而して又南アフリカ迂回航路の長大なることでもある。英、米、兩國の造船所は、敵の通商破壊による擊沈船の半ば以上を補充し得ない。しかも擊沈は免かれたるも損傷を受けたる船舶も亦多數である。造船力と飛行場、高射砲裝備の補充力とは互に相競争してゐる。戦時には海難は續出し造船設備も修理を併せ引受けねばならぬ。政府は是等の困難について自から辨じてゐるが、パンの消費を制限し、パン粉に馬鈴薯を混和せしめ、未精白麥粉パンの食用を奨励するによつて、年々幾百萬トンの船腹を節約し得るを思はず、戦前よりも遙かに消費量を増加せるパンに、割當配給制を施行せざる食糧省の決意を支持し居れるが如きは、果して賢明なりや否やが疑はれる。肉類、チーズ、砂糖、脂類の輸入は、小麦の輸入に要する以下の船腹を以て、遙かにこれに優るカオリの供給を確保せしむるに足り、又營養專家は萬一の場合には、選擇さへ誤らなかつたならば、輸入食料品の額は六或は七百萬トンのに足らんと云へるに際して、この船腹不足の際に、この額の二倍以上を輸入し居れるが如きは、食糧政策の遂行に大なる疑惑を懐かしむるものである。

#### 既の特典に執着する資本家、勞働者

かくの如き食糧政策の關係する所は常にその經濟措置のみに止らず、更に食料品の生産及び分配の總括的統制を意味するであらう。その一般的割當配給、共同給食の大々的普及、あらゆる世帯に最低所要を確保すべく慎重に考慮せる貨銀、給與政策、對農業者政策とは別箇の對農業者政策を意味するであらう。たとへば、人員、機械を動員せしむるときは、これが爲に企業者、取引者に若干の損失を蒙らしむるを免かれざるに際して、これを補償することを好まざる傳統は、かゝる動員を阻止することとなる。企業者も亦依然として自己の危険を以てその事業を經營することを期待するが爲、その個人的に脅威するが如き營業方針は、たとへば如何に競争努力上必需なりとするも尚ほ之を採用するに躊躇する。而してその取引高を低下するも尚ほその収益を維持せんが爲に暴利者と協同する。勞働者も亦この例に倣うて利己に奔り、國家一體の精神を破壊し去る。勞資何れにしても、敗戦の悲痛と戦士の負擔とを顧慮することなく、時局を奇貨として暴利を貪るが如き、共に沙汰の限りである。

#### 統制に要領を確保せよ

之は背景であつて、前景には幾多の工場が活動して、一日は一日と、より多くの軍需品を生産してゐるが、固より之を以て足れりとはしない。タリト戦は多くの教訓を與へたが、わけても兵器の供給は如何に豊富なるも、多々益々辨するに過ぎざ

ることを教へた。然れども吾人の軍需工業の統制はなほ弛緩せりといふべきである。官僚的であり、形式的である。軍需生産實施局は政府のタンク、銃砲、航空機、裝備の供給計畫、供給命令に指令を與へ、職權を與へたるも、計畫と日々の現實の實施とはなほ餘りにも多く齟齬し、或は豫定の如く進捗し或は空しうしてゐる。即ち處理と統制との問題で、事態の實狀を精察し、情實を顧みず、速やかに難關を打破し大臣に通報すべき警敏、快適の處理機關の問題である。航空機製作大臣ビーヴァーブルックは是等の權能を掌握し得るであらう。技術知識者を生産のあらゆる方面に出して情報を集め、自己の管掌事項に専念して他を顧るに暇なき幾多の供給部會の上に立ち、生産に緊張と均衡とを與へ——而して又これを増大し得るであらう。

#### 下院の職分と首相への要望

チャーチル首相の五月十日の議會での論議は決して戦争の遂行に關する正々堂々の批評を拒否したものではなかつたらう。彼の經歷と今次大戦の今日までの經驗とはこれを證するに足る。思ふに下院の職掌は二つある、即ち國民の疑惑及び要望を表明すること、及び批評によりて而して又默諾によりて、政府の實行に力を與ふることである。如何なる論議者も雖チャーチル首相の業績が最近の一年に於て全く面目を一新せることを否認する者はなからうし、又彼が軍需資材の薄弱なりしが爲に、その戰略を跛行せしめざるを得なかつたことを問責することも



私人的企圖による同上 (約) 一〇、〇〇〇

私人的企圖による避難

私人的企圖による避難者の歸還せる主要なる理由は、(イ) パーミンガムが敵の空襲より可なり安全なりしこと、及び(ロ) 児童を避難先に滞留せしむることの入費高である。公共計畫によりて避難せる者の中より多数の歸還者ありたるは、(ハ)この安全の理由と(ニ)學齡終了期なりし理由による。

緊急及び特別の處理を要する疾患者は避難せしめつゝあり、諸學校とも今後避難せしむべきものを登録しつゝある。

三 シェフィールド (一九三一年の人口五二萬二千餘)

避難先

ノッチンガムシヤ、リースター、兩州の諸地方  
全市學童數 (約) 六〇、〇〇〇  
學童を避難せしめ得る地方の學童數 (約) 三〇、〇〇〇  
避難學童の最大數に達せる時の數 五三〇〇  
現在に於ける避難者數 (約) 一、五〇〇  
昨一九四〇年十二月の空襲前の避難數 七〇〇

數字の意義

當市に於ては全市の學童を避難せしむるを得ず、これを爲さしめ得るものは、市内の某部分に在住する者のみで、その學童數は全市のその約半でありその六分の一強が避難したること

なる。現在の避難者數中には、最初避難せしむるに居残れる者を含む。

今一九四一年の夏に入りてより避難先より歸還した者は少數で、大部分は昨一九四〇年十二月の敵の猛空襲前に既に歸還してゐた。この猛空襲前の避難者數七〇〇と現在の避難者數一、五〇〇との差は、この空襲後に避難したる者の數と思はれる。

歸還の理由多く不明

多くの父兄はその児童を歸還せしめることに理由を示さない。ある教育當局者の如きも「任意に歸還せしめたるに過ぎない」と云つてゐる。

避難費補助の制度

避難者を少數づゝ順次に避難地に赴かしむる "trickle scheme" は、今なほ何人にも利用せしめらるることとなつてゐる。即ち、老年父母、乳兒を哺育する母親、老弱者、疾患者、盲目者、等の爲め、避難者收容地域又は中間地域(安全なる避難者收容地域と空襲の危険に曝露せる地域との中間地域)に於て、避難住居借入の契約を自から取極めたる者には、乗車船券及び避難住居費給付の證明書を交付するもの、かかる取極を爲したる旨の證明を提出せしめることとなつてゐる。

四、サルフォード (ランカシヤ、一九三一年の人口三三萬三千餘)

一九三九年十月上旬全市の學童總數 (約) 三〇、〇〇〇  
同月第一週中の避難退去者數 (約) 二〇、〇〇〇  
同年十月十一日に於ける避難先よりの歸還者數

一九四〇年十二月空襲當時の避難先現在數 (約) 三、〇〇〇  
その直後の避難者數 (約) 二、七〇〇  
一九四一年一月避難者現在數 四、一九八  
同年五月同 六、八八九  
同年六月同(最近の計數) 六、四四二  
六、五〇九

避難に懐疑的なる父兄

サルフォード市の父兄等はその子弟を安全地帯に避難せしむることの緊急を要するや否やについて、マンチエスター市のそれと同様に懐疑的であつた。即ち開戦當初には政府の要請に應じて、一昨一九三九年十月の第一週には、マンチエスターと略略同等、他の北方諸市よりも高率なる全市學童三萬の中の約二萬を避難せしめたるも、歸還運動も亦早く始まり、翌十月十一日には約三千人の歸還を見たるより續いて、昨一九四〇年十二月の敵空襲直前には、避難先に在留せるもの約二、七〇〇を數ふるに止まつた。尚サルフォード市に對する敵の空襲は猛烈で、交通の復舊と共に多数の避難退去あるべきことを豫想せしめたるも、事實はこれに反してたゞ四、一九八人の避難を見たに止まり、學童父兄は沈着なれども慎重ならざる勇氣を示した。この數は、その後今一九四一年の初めに入りて六、八八九に増加したるも、同じく今年五月一日には再び六、四四二に低落した。

尚サルフォードの貧困階級の住居地域が敵空襲に猛爆されたる際には、前記と同様に多數あるべきを豫想せしめたるも、實際に避難せる學童は遙かに豫想數を下廻り、一ヶ月を経たる後に於て六、五〇九即ち敵空襲前よりも六十七人を増せるに過ぎなかつた。

歸還の理由は不明

この六、五〇九の數字は最近調査し得たる避難學童の現在數であるが、學校休暇の終了と共に更に多数の歸還者あるべきや否やは、その時期に至らざれば判明しない。學童はその父兄の意に従つて往復し、これを禁止する機能をもつてゐる者もない。避難地の學校が閉鎖しある際には、父兄居住地の教育當局も、避難のそれも、共に學童の所在を確め得ない。

かく學童は一昨一九三九年九月に避難の制度 "trickle scheme" を實施し始めてより、出入常なく、市教育主務者の言によれば一たび避難して、父兄の許に歸還し、再び避難せる者もあり、歸還するにも理由を示さず、又これを示すことを要求されず、大に取扱者を困惑せしめてゐる。

父兄の訪問、學童の心理不安定

なほ一つ教育當局者を困惑せしむるは、當サルフォード市の學童の退去せる避難地の幾つか、當市に近接せる爲、父兄として屢、児童を訪問し、児童の心理を不安定ならしめることである。教育當局者は學童を避難先に落ち付かしむるが爲には、學校教員、地元篤志家、篤志婦人團體 "Womens' Voluntary Ser-

る等が電々努力し居るも、なほ學童を確實に危険地帯より隔離せしめ得ないと云つてゐる。

被服問題、當局の措置

被服問題は當初より稍、困難なるものであつたが、尚サルフォード市の教育當局は注目し、方法を以てこれを解決した。即ち(一)まづ避難兒童の所要を豫測し、(二)實際の所要を見るに至らば、特別の書式を以て市の教育當局に申告せしめ、(三)當局はこれを父兄に通報して、下の三つの何れかを選擇しめる。即ち(一)學童の避難住居に直接に所要衣類を添付するか(二)學童の避難地に於て所要衣類を購買することを委任し、代金を支拂ふことに同意するか、又は(三)資力なき旨の證明を得たる者は、一部政府より、一部篤志寄附より成る資金を以てする購買を委託し、代金中の賦課された額だけを資金中に納入する。この措置には前記の篤志婦人團の援助が與つて力がある。

市教育當局の言によれば、この措置はたゞに學童に必要な被服を行き渡らしめたるのみならず、この點に關し避難先の家庭への遠慮をも無用とするに至つた。

五、ストレットフォード

一九三九年九月に於ける全市學童數 (ランカシャー州一九三一年の人口五萬六千餘) 七、九〇〇  
内避難せる者 五、三〇〇  
當市の教育當局はその方針なりとて、學童の避難に關し何等

の發表をしない。

六、カーチフ

(グラモーガンシャー州一九三一年の人口二二萬三千餘) 二、二〇〇  
避難先 グラモーガンシャー州、モンマスシャー州、南ブレコンシャー州の諸地方。

全市學童總數 (約) 三〇、〇〇〇

最大數に達したる時(一九四一年五月末)の避難者數 四、二五六

一九四一年六月末に於ける歸還者數(最新計數) 五〇八

同 避難先在留數 三七四八

最近現在避難者の見込數 三、〇〇〇

× 避難退去者は少數

× 避難せしめたる學童は、カーチフ市中最も危険なりと認められたる地區に在居せる者のみで、避難先は主として、カーチフより三十マイル内外の炭坑地區であつた。

避難の勧告に應ずる者は少數で、最初に避難せるものは、全市學童約三萬の約一四%に過ぎず、最も新しき調査による今

一九四一年六月末の計數は、歸還者五〇八、滞留者三七四八を示してゐる。

學校休暇とその後の再避難

避難地域の諸學校は目下休暇中で、學童も多數父兄の許に歸還してゐるが、その正確なる數は判明しない。且つ又休暇終了

後にも再び避難するもの多からざるべしと憂慮さるゝも、一二週間の後學校の再開するまでは確認し得ない。當局者は目下避難先にあるもの三千人、即ち全市學童總數の約一〇%を超へざるものと見てゐる。

歸還阻止の努力

學童の避難先よりの歸還について大多數の父兄の與ふる理由は、(イ)避難先も當カーチフ市も、敵の空襲に對する危険に、大なる差を認めざる、及び(ロ)最初に避難せしめてより以後、大にその危険を減せることである。當カーチフ市當局はその學童の避難先を、餘りにも當市に近い地方に求めたことを不満としてゐる。

市の當局は學童を避難先より歸還せしめざることを、最近特に父兄に要請し、これが爲にはこれについての保健省の回文を配布したことを擧げ得る。

七、リヴァプール(一九三一年の人口八五萬五千餘)

一九三九年九月開戦當時の全市學童數 (約) 一三五、〇〇〇

避難必要の地域内の在居者 (約) 一〇五、〇〇〇

避難先への退去の爲の乗車登録者 (約) 七七、〇〇〇

内 第一回避難退去者 (約) 五七、〇〇〇

退去せる父兄の許に残留せる者(約) 四七、〇〇〇

同年同月末迄に避難先より歸還せる者 七、六四三

一九四〇年十一月避難先滞留者 一〇、四五八

英 國

一九四一年一月十一日避難滞留者	(約) 一、二〇、〇〇〇
同年同月中旬同	(約) 一六、〇〇〇
同年三月二十二日同	(約) 二〇、〇〇〇
同年五月(學校休暇)同	(約) 三二、〇〇〇
同年八月全市學童數	(約) 一一〇、〇〇〇

二割九分避難地在留の現状

リヴァプール市學童の父兄は、敵の猛烈なる空襲の際のみ、その子弟を避難せしめるかに見へる。即ち一九三九年九月避難を開始せしめてより以後、避難地滞留者は常に減少するのみで、現今に於ては全市の全學童數十一萬の二九%を避難地に殘留せしむるに過ぎない。

市當局はこの避難開始の一九三九年九月以後、市の避難地域を増加せる事實あるも、計數上正確なるを得ざるが故に、前記の數字を以て略々現状を現はせる事と見做し得る。

兒童の安危に冷淡か

學童の安全につき父兄に慎重の考慮を拂はしむることに、新聞、雜誌の記事、教員の勧告、父兄の會合、回文の配布、等種々の方法を以て努力しつゝあるも、比較的安全なる地區が、なほ全學童の三分の一を父兄と共に收容し居る現今では、多く父兄の心を動かし得ない。

これについて市教育當局は左の如き例を擧げてゐる。(イ)六人中、二人を空襲で失へる家族につき、當局は年少男子一人を

指名して避難せしめたるが、立退きたる水曜日より二日を隔てたる火曜日には、早くもその歸還せるを認め、(ロ)ある父は三児を預ける寄宿舎に委託して、その凡てに對して一週五シリングを拂ふに過ぎざるも、なほこれを歸宅せしむることを主張し、これに對應する手段も見出し得ない有様である。

ハ、パークンヘッド

リヴァプール對岸一九三一年の人口一四萬七千餘  
 (約)二二、〇〇〇  
 全市學童總數  
 最大數に達したるとききの避難學童數 (約) 九三五〇  
 最小數に下りたる時きの (約) 二、八〇〇  
 一九四一年七月現在の (約) 三、六〇〇  
 一九四一年三月末までの市郊外への移住(家族數) (約) 一、六〇〇

常パークンヘッド市にては、市域の隣接部外に前表の如き一萬六千家族の移住あり、學童も五歳以下の幼兒もその中にあつたことが注目される。

九、ウオラシー (チェシヤ州、一九三一年の人口九萬七千餘)  
 (約)一、〇〇〇  
 全市學童總數  
 最大數に達したるとききの避難學童數 (約) 三、七〇〇  
 學校休暇季節前の 同 (約) 三、四〇〇

常ウオラシー Walsley 市は、最初その一部のみが避難所要

地域としての指定され、その後同區域の加除あり、市域の一部は今なほ避難所要地域より除外されてゐる。又個人的意圖を以て避難した者も多い。

十、グラスゴウ (一九三一年の人口一〇八萬八千餘)

主要避難先、スコットランド諸都市  
 全市學童總數 (約) 一七五、〇〇〇  
 一九三九年九月初め最大數に達したるとききの避難學童數(全數の約四〇%) (約) 七〇、〇〇〇

自一九三九年九月 新避難者 (約) 四、八〇〇  
 自一九四一年三月中旬 同 (約) 一、二〇〇〇  
 至同年八月月中旬 同 (約) 八七、〇〇〇

當局取扱の避難者總數  
 一九四一年三月以後の私人的企圖による避難者數(註) (約) 三八、〇〇〇  
 同年同月の空襲後の退去者總數 (約) 五〇、〇〇〇  
 一九四一年八月中旬現在の避難學童總數(全學童數の約四分の一) (約) 四七、〇〇〇

今一九四一年三月の空襲後の避難三八萬八千は、退去は私人の企圖により、退去先の住民は政府の割當によりて、單獨に又は父兄に隨伴されて避難せる者である。昨一九四〇年以來今年夏まで出入共に多く、前表の數字は一時期のみ避難せる者

一時避難して歸家せる者、再び避難先に退去せる者、歸家せるまへ父兄の許にある者、等を凡て含んでゐる。現在の避難者數約四萬七千圓、現今の全市學童總數の約四分の一である。

避難先の双方の不満  
 今一九四一年夏に於ける學童に歸家の理由は敵の空襲の弛緩と父兄の要望とであり、避難先住居に對する不満があり、又避難兒童の避難先の環境に順應せざる不満もあるが、これらは比較的少數である。

避難阻止の努力

避難先の環境の利益の認識

かゝる父兄の許への歸還運動を反轉させる爲には多くの努力が拂はれつゝある。即ち(イ)教員等の父兄説得、(ロ)兒童を産業の地帯に残留せしむることの危険のポスターによる指示、(ハ)公開講演等で、大小種々の反應があつた

敵の空襲の弛緩することは、多くの父兄をして兒童の安全考慮を疎かにせしめ易きも、敵の猛攻撃に逢はば、たしかに避難施設の増強を要求することならんと思はれる。開戦當初より引續き避難地に落付ける兒童も多くして、父兄と共に均しく新しき環境より享受する利益を認識してゐる。

十一、エヂムバラ (一九三一年の人口四三萬八千餘)

避難先

パンフ、パリツク、クラクマン、東ロシヤン、フワイフ、インヴァーナス、ミドロシヤン、モラー、ナアン、ピーブルズ、ワクスバラ、セ

英國

ルカーク、西ロシヤン諸州の各地

開戦當初の全市學童總數 (約)六二、五〇〇  
 一九三九年九月一、二日の政府施設による避難者數(開戦以來現在までの最大數) (約)二五、〇〇〇  
 一九四一年八月中旬の現在避難者數(私人的企圖による者を除外) (約) 六、〇〇〇  
 一九四一年四月より八月中旬までに避難志望を登録せるもの (約) 二、〇〇〇  
 内普通私人住居に避難せるもの (約) 七、〇〇〇  
 特設避難所、特定私人住居に避難せるもの(約) 二〇〇  
 登録者中身體検査にも出でざりしもの 五一五

家庭への歸還の理由

政府施設により私人的企圖によれる避難者は、略、政府施設によれるそれと同數に達するものと見られる。今一九四一年夏の家庭歸還者は、休暇季節の終るまでは確認し得ないが、多數によるべしと思はれる。  
 一般に避難先より家庭への歸還理由は(イ)家族的な理由で、即ち父兄はその家族の別居状態にあるを好まず、又(ロ)多くの場合に出費の爲である。即ち、避難費用の支給を以てしては、母親の衣類手入れの十分その他で、兒童を外泊せしむるを困難とし、外に固より(ハ)敵の來襲の弛緩もある。

父兄に兒童の安全を重視せしむる宣傳は、印刷物の配布、教

七三

七二

員の報告等を以て努力してゐる。

當市の特殊事情

イングランドより避難し来る

空襲全般に関する事項として、當エヂムバラ市は特殊の状況下にある。即ち避難退去する者よりも避難入市する者の方が多いことである。エヂムバラ市民は自市の危険地域の内にいることを脱かるゝも、イングランドの人々はエヂムバラを以て安全都市と見、少なくともイングランドの諸都市よりは安全なりと考へて、これに避難する爲の旅行許可を要請するものがある。これが爲に當エヂムバラ市の吏員は、その市民の避難を勧告するに大なる困難に遇ふ實状である。

十二、スウォンジー

(グラモーガンシヤ州一三一年の人口餘一六萬四千)

避難先

ケイナヴォンシヤ、ベムプロウシヤ、ブレユンシヤ諸州の諸地

全市學童總數

最大數に達したときの避難學童數 (約) 二一、〇〇〇

避難先より歸還せる數 (約) 七、〇〇〇

薄弱なる歸還の理由

前記の避難者總數の中には、今一九四一年二月の敵の空襲の後、私人的企圖によつて避難せる者多數を包含してゐる。避難先よりの歸還者が七百に止まるは、現下の状態として満足なり

とも云へる。初期の歸還者中には懐郷の爲もあり、後には學校休暇の開始の爲のものもある。(この分の數は判明しない。)その他の理由としては、(イ)避難先の近くに過ぐとの見解の公式發表、(ロ)父兄の訪問、(ハ)敵空襲の弛緩、等であつて、學校教員等は、児童等が周到なる保育を受けたる場所より、些細なる又は想像による理由より歸還せるもの多きことを遺憾としてゐる。

歸還阻止の努力

今までの所、避難先よりの歸還運動を反轉せしめんとする公式努力は試みられなかつたが、休暇季節終了の後は、大多數を再避難せしめ、その爲の施設も繼續さるべく、然らざれば、敵の新たな空襲は避難殺到の狀態を現出することと思はれる。

少數の避難者

一般に云へば全學童數の三分の一の避難は不成績とも局外者には見へようが、當スウォンジーは市域極めて廣く(全州中第五)して、學童三千乃至四千を有すと見らるる郊外市域よりは、殆んど一人の避難者もなかりしことより見て、前記の數を以てしては相當の成績とも云ひ得る。

十三、プリストル

(グルースタシヤ州一九三一年の人口三九萬六千餘)

避難先

デヴォン、コーンウォール、兩州の諸地

全市學童總數

(約) 五〇、〇〇〇

一九四一年二月避難者が最大數に達したときの數 六三、七〇〇

一九四一年八月中旬現在の避難者數

公共施設

(約) 一、四〇〇

私人的企圖

(約) 四、〇〇〇

他市と同様、避難先よりの歸還はあるが、出入常なく、又正確な數を知り得ないが、少數である。歸還の理由は、敵空襲の

弛緩、學校の休暇、病氣、等である。

かゝる歸還運動を阻止せんとする努力は企てられぬ。父兄等は競争終了までその児童を避難先に滞留せしむる旨の書面に署名はしてゐるが、避難退去は任意のこととしてあるから、従つてこれを抑制する途はない現状にある。

(資料マンチエスター・ガーヂヤン紙一九四一年八月十九日二十一日號)

英國の地方諸都市に於ける學童の空襲避難狀況一覽

マンチエスター・ガーヂヤン紙一九四一年八月十九日二十一日の記事中より摘出せる數字による。

都 市	一九三一年に於ける各市總人口 (單位千)	開戦當時の全學童總數	開戦當初の避難學童數	最大數に達せる時の避難學童數	最少數に下れる時の避難學童數	最新の調査に現はれたる避難學童數	調査年月	人員
マンチエスター	七六六	九一、七五五	六〇、四七七	三〇、〇〇〇	一、九四一・八	三、〇〇〇	一九四一・八	三、〇〇〇
バーミンガム	一、〇〇一	一五〇、〇〇〇	—	—	一九四一・五	—	一九四一・五	—
シフイルド	五一一	六〇、〇〇〇	—	—	一九四一・八	—	一九四一・八	—
サルフォード	三三三	三〇、〇〇〇	—	—	一九四一・六	—	一九四一・六	—
ストレツトフ	五六	七、九〇〇	—	—	—	—	—	—
カーヂフ	三三三	三〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—
リヴァプール	八五五	一三五、〇〇〇	—	—	—	—	—	—
バークンヘッド	一四七	三三、〇〇〇	—	—	—	—	—	—
ウオラシー	九七	一一、〇〇〇	—	—	—	—	—	—



グラスゴウ	一〇八八	一七五〇〇〇	七〇〇〇〇	七〇〇〇〇	一九四一八	四七〇〇〇
エヂムバラ	四三八	六二五〇〇	二五〇〇〇	二五〇〇〇	一九四一八	六〇〇〇
スウォニシー	一六四	二二〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	—	—
プリストル	三九六	五〇、〇〇〇	—	六三七〇	一九四一八	二、四〇〇

(註) 一、本表の数字は新聞の報道記事に據り之を摘出せるものである。(—は数字の不明なるを示す)  
 二、最大、最小とも、記事に明白にその旨の記述あるものに限り本表に摘録した。適々抽出せる数字中の最大若は最小なるを以て本表の當該欄に記入せることなし。  
 三、百位以下の端数なきものは凡て概数である。  
 四、最近の調査の年月は新聞記事にその旨の明記なきものは止むを得ず新聞の発行日附の一九四一年八月十九—二十一日なるを以て同年八月中の調査と一應見做した。  
 五、本表中の数字は凡て公の避難計畫に依るもののみ。私人企圖を含まず。

世界一般

第二次世界大戦直前に於けるオランダの諸相

- 一、経済政策
- 二、社会機構
- 三、教育
- 四、オランダ生活の種々相
- 五、政黨

六、オランダに於ける國家社会主義

三十年以前オランダ人は自由貿易國民であつた。自國內に於ても植民地に於ても自由輸入品や確實なる通貨に基つた經濟政策を取つて居たが、漸次彼等は此の傳統から離れて行つた併し徐々にしかも不満足なからさうなつたのである。決定的な第一歩を踏み出したのは一九三〇年の産業大不振の結果であつ

た。主産物の價格低下は植民地及びオランダ國內農業の兩者に打撃を與へた。到る處さういふ事情であつたので船荷はそのまま停頓し、運送貿易も落目となり、容易ならぬ失業問題が起つた。徴税からの収入は低下した。國家は先づ第一に自由經濟の傳統的對策に傾倒した。公の俸給も含んであるのだが、凡ゆる種類の政府の歳入は減せられ税率は増した。それは失業者救済にあてがはれた。が制限的政策は住民の困難を増大した。自國の産業不振を保護すべき他國の企圖は事態を一層悪化せしめた。オランダ輸出品の市場として當時ドイツに相次ぐものだったが後にはドイツをも凌駕するに至つた英國は、對當てに依つて農産輸入品を制限するの餘儀なきを知つた。これはオランダ搾乳場や市場に賣出す蔬菜果實の大部分の消滅を來たすことを意味して居た。オタワ組織に依つて英國はオランダ植民地の農産物の市場を制限して居る自國植民地に對して優先權を讓與した。又英國が金本位制を廢した時オランダの輸出業者や船舶所有者は不利益を蒙つた。しかもオランダは尙も金本位制を保つて居た。併し確實なる通貨の傳統主義を保持して居る者と、價格を下げそれに依つて輸出を奨励し、失業者を減少しようとする者との間に烈しい論争が數年に亘つて續いた。しかしながら一九三六年九月にフランスとスイスとは金本位制を斷念したがオランダも亦使用通貨の訂正を行つた。

に對して、植民地向けの輸出品保護の爲に、植民地貿易に對して分配制が適用された。オランダ植民地はゴム・茶・砂糖・錫等を國際的に制限する活動に参加した。國內農業はひどく制限された。乳牛、豚、家禽その他の輸出品は輕減された。農産輸出品は非常に高價になつたとは云へ、國內消費者の加税に依つて非常な奨励金を給せられ、一方國內の生産は輸入經費を少くする爲に擴大せられ、一九三四年から一九三六年迄の總収入高の三分の一は國家に依つて農耕者に支拂はれた、その結果、又同じ政策の結果一九三九年の開戦にあつた。オランダの經濟機構は統制せられた資本主義の一つとなつた。此の新組織は工業の機構に非常なる變化を、特に大商社的手中に集中する傾向をもたらしめた。それは失業問題を解決し得なかつたが緩和には役立たず。大體にそれは經濟的危機の時代を通してオランダには確かな、出來得る限りの回復を齎らした。オランダは充分に困難に耐へ得ると共に一方烈しい社會闘争をもさげ得た。何故ならば要求によつて政府の民主主義組織が擡頭したからである。

世界一般



の中神聖ロマ帝国の古き伯爵の位階を持つ家族が少しはあ  
る。又オランダ國王に依つて創られた若干のより高い稱號があ  
る。併し多くは「nobles」といふ稱號を持つてゐるものであ  
る。此の稱號は英國のそれの様に長男のみが受け継ぐと云ふの  
では無く、他の國々の如く、その保持者の子供全部に傳はる。  
これは一八一四年にオランダ王國が構成せられた時に、彼等の  
祖先が共和國時代三代の間オランダ都市の貴族であつた事が  
盟示され得る者の總べてに對して與へられた。斯うして彼等は  
支配階級ではあるが土地所有者では無い。オランダは保守主義  
にもかゝらず十九世紀を通じて支配階級は英國に於ても全  
くさうであつた様に、古い世襲的要素に取つてかはり事業や職  
業の社會からの新しい要素を加へて徐々に擴がつて行つた。官  
途に就くの道は、英國に於けると同様に一般に廣く開かれて居  
ない。オランダには競争試験に依る機會均等を供給する文化委  
員會がある。それぞれの官廳は各日の任務を擔當し、社會的勢  
力又は黨の勢力を含む多種多様な勢力は、之等の任務を達す  
るに有效なものである。

極く最近オランダに於ける種々の階級の日日の交際は英國に  
於けるよりは著しく親密さを失つて來た。これに伴ひ習慣も變  
つた。一般にオランダ人の社會的生活の外觀的調子は民主主義  
的であつた。奴隸的狀態は何處にも見られず、一般人の生活は  
自由で、事實殆んど自由であり安易なものであつた。人口八百  
萬の中で四百萬は自轉車を持つて居ると云ふ事實はオランダ生

活の大部分を概説して居る。凡ゆる階級の人々が仕事に又樂し  
みの爲、勞働者から軍人に至るまで自轉車を使用して居る。ガ  
ソリンが切れると女王自身さへもペダルを踏んで街を乗り廻は  
されることがある。自轉車を使用すると云ふ事は民主主義社會  
の象徴である。

三、教育

オランダ人は世界で最も高い教育を持つてゐる國民の一つで  
ある。諸外國語に通じた人々として、他の國民より遙かに多く  
の者が讀んだり、話したり、書いたりする事が出来る。この意  
味で彼等は恐らくヨーロッパに於て第一位を占めてゐるであら  
う。大きな國々にかこまれた一小國として彼等の好機を徹底的  
利に用しなければならぬとしたら、彼等はかうした知識を必  
要とするのは當然である。彼等は外國語を單に實利を主とする  
理由からのみ習得するのではない。彼等は諸外國、その文學、  
その見解について相當に廣い理解を持つてゐる。單に言語教育  
のみならず、凡ゆる主題を教へる事に於て彼等の學校は優秀で  
ある。凡ゆる階級の大多數の少年少女は種々の等級の晝間學校  
に於て教育を受け、その多くは男女共學制である。

オランダ人の間には宗教教育に就て長いこと論争が行はれ  
た。現行の組織は早期に於ける局外中立の學校と同じ様に國家  
から補助金を下附される宗教諸學校が國立として非常な權力を  
持つてゐる。

オランダ人は諸大學や其他高等教育を受ける諸學校を根底の

ある時と看做してゐる。最古の大學であるライデンは十六世紀  
以來學問科學の世界的最大中心の一つである。其他オランダの  
大學は同様な立派な傳統を持つて居り、彼等が特に東洋研究の  
故に有名であるのは當然の事であらう。併しオランダは世界思  
想の生きた指導者を持つて居ない。

ライデンの様にユットレクトとグロネゲンは國立大學であ  
る。三つの私立大學即ちアムステルダム大學、同市のカルガイ  
ン派の自由大學、ニムウエーゲンの天主教大學は友誼ある競  
争又協同に於て相提携してゐることはオランダ自由の一特色  
である。デルフト市の高等工業學校は工學・工藝學の凡ゆる分派  
に於いて學位を授與する官立學校である。

此發嘆に價する教育組織はオランダ人の公私生活の特性に著  
しい影響を及ぼした。それは一般文化と専門的能力に高い水準  
を與へた。オランダ内閣員の行政上の職務は、例へば彼等の報  
告書や、備忘録は非常に完全になされてゐるものとしてそれに  
接觸する何人にも印象を與へるものがある。ドイツ侵略以前オ  
ランダの新聞は教養あるオランダ公衆によく相應しいものであ  
つた。彼等は堅實によく打明けて話し、その表現にいたつては  
眞面目である。

四、オランダ生活の種々相

オランダは小さい國ではあるがオランダ人の生活は多岐にわ  
たつて居る。様々な影響が植民地から、又大きな近隣の異國か  
ら流れ込んで來る。最大都市アムステルダムは名義上の首都で

あり、その首都に集められた凡ゆる國々の様々な活動は他の市  
迄も擴げられてゐる。

オランダ人の生活の種々相は民族的相異から起つて來るの  
は無い。フリーズランド人は彼等自身の言語を話し、オランダ  
語と類似して居るが英語にはより近くオランダ人に取つては  
譯の解らない外國語である。それはフリーズランド地方の三十  
萬近くの人々に依つて、又ドイツ・デンマークに屬する北フリー  
ズランド島に於ける二千人の人々に依つて話されて居り、これ  
等がかつてもつと廣い地域を領して居たフリーズランド人の遺  
風である。最近數年フリーズランド語の運動があつた。其言語  
は現在フリーズランドの百以上の小學校で教へられてゐる(約全  
数の五分の一)。しかしフリーズランド語の運動は政治運動、或  
は國家主義運動では無い。フリーズランド人は立派なオランダ  
人であり、而もこの州は一般に尊敬され得べき要素即ち正直と  
か、性格の爲に特に評判となれる人々を生活に寄與せしめてあ  
る。現在總理大臣と外務大臣は二人ともフリーズランド人であ  
り、ロイド・ジョージにとつて英語が第二の言語である様に前者  
はフリーズランド語を話し、彼にとつてはオランダ語は第二の  
言語となつてゐる。その地理的地位と國際的貿易は過去幾世紀  
もの間諸外國の移民をオランダに引寄せ、其多くは時が経つに  
つれて生來の國民の中へと併合されて來た。併し全く同化しな  
い二つの外國移民がある。ユダヤ系の住民は西部ヨーロッパの  
如何なる國々よりも多い。しかしながら一九三三年以後の亡命

者が新しい問題を惹起した以外は、オランダにはユダヤ人問題は無いと言ひ得る。が而してドイツ人問題は、ドイツ人のオランダへの永住的住民は社會に於ける凡ゆる階級を引くるめて一〇萬以上も数へられる。彼等の中にあつては海外のドイツ人の爲、官立又半官立の種々な組織が非常に多くの與黨を持つてゐる。ドイツ植民地の政治活動は秘密に行はれては居るが非常な危険性を有してゐる。併し彼等がどんなに眞實であるかは知る人が少い。

この國に於ける其他の外國の植民地はそれ程多數ではなく、オランダ人の生活の種々様な要素の間にあつては注意に値しないものである。此の多様性の根源の一つは宗教の相異にある。西部の國でこれ程宗教が公衆の生活に大きな影響を及ぼした國はない。英國人は往々オランダ人はカルヴィン教徒の國であると思つてゐる。併しこれは間違であつて、オランダ人は各種の教會に屬する多數の信者を有して居る。これに依れば最も大きな單一團體であるオランダ・リフ・フォーム・ド・チャアチは、かつては國立教會であつたのだが、之は全人口の約三分の一を含んで居り、他の新教徒は必ずしも全部がカルヴィン派ではなく約同数を算へられるべく、一方三分の一以上はロマン・キヤソリックである。ロマン・キヤソリックは南部地方に於いて、特に北プロバントと、リム・バダグに於て最も勢力があり、そこでは隣人としてベルギーやドイツのキヤソリックがある。此二つの宗派は多くの他地方と同様に注意すべき要素である。彼等は大家族と

なつて居るので次第に増大して行く傾向がある。彼等は宗教改革以來の處で時には地方的な又個人的な出来事を通じ、カルヴィン教徒と相提攜して彼等自身を支持して来た。英國の旅行客達が漁夫の獲の様な服装に袴の目を露ると云ふ有名な相隣つた二つの村の中、ホレンダムはキヤソリックでマーケンが新教徒である。キヤソリック教徒が小數であると云ふのはグロニンゲン・フリートラント・ドレンテの北方地方に於てのみである。

### 五、政 黨

オランダに於ける政黨の感情は激しくなつて来た。それは一部分宗教的相違といふ要因を含んで居るからである。政黨は多岐にわたるが、他國のキヤソリック教徒の様にオランダのそれは教育や其他多くの問題に意見を同じうして居るが、リフ・フォーム・ド・チャアチを代表してゐる政黨は歴史的基督者黨で、一方低い中産階級の中で勢力を持つてゐる非國教のプロテスタント派は反革命黨である。現代の總理大臣デ・ブランデイ教授と彼の前任者コリーニン博士とはこの黨に屬するものである。自由黨員は事業家の中産階級を代表してゐる。且つ獨立民主黨員は自由主義者と過激論者より成る政黨を構成してゐる。

社會民主黨は同じ様に職工組合主義に基礎を持つて居り近年迄はより革命的であつたが英國労働黨に比し實際的ではなかつた。オランダ人は幾多の方面に於て注目であり、資産に影響する事柄に就ては特にさうである。例へば彼等はソヴィエト政權

に對して正式の證認を與へざるが如き即ちそれである。農田の主張者としての國家や、地方官廳による濫費の社會主義者に對する不信任は非常に廣く擴がつてゐる。彼等は西ヨーロッパに於いて内閣に社會主義の大臣を持つ最後の國民であつた。比例選挙の下に於ける政黨組織は必然的に複雑な聯合へと導いた。その組織の實施以來單一な政黨政府は決して構成されなかつた。一九一八年から一九二五年にかけてキリスト教徒の提携が見られ、即ちロマン・キヤソリック教徒の首相が正統派のカルヴィン教徒に依つて支持された。併し一九二五年以後行政は政府の各省を預つてゐるが、議會の多數を左右せざる無政府黨内閣の老練家達によつて進捗せしめられた。此世情不安の状態は經濟的不況競争危険へと立戻り、その結果から来る國家政策の要求を以つて終焉を告げた。一九三三年事務上、政策上植民地軍に廣い經驗を持つる意志の人コリーニン氏は反社會主義黨の提携の主腦として首相となつた。彼は經濟政策上の變更をやり直し軍備刷新の問題に着手した。然し一九三九年の夏迄には最早や、彼はより多くの社會的處用の主張者と、正統の自由經濟學者とを彼の内閣に於いて結合する事が出来なかつた。社會主義者が事實上共和主義を廢した二三年前、一九三七年に彼等は總べての軍備に對する反對をなげうつた。官途は此様にして彼等の爲に閉かれた。そしてコリーニン氏は異郷にありながらも尙も政權を握つてゐる政府のために道を作つた。それは主としてキヤソリック教徒、社會主義者、基督教徒歴史派の合同であ

### 六、オランダに於ける國家社會主義

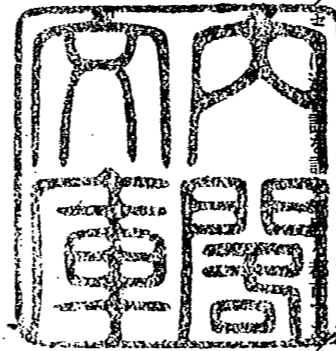
當座の代表的政黨機構の外に過激派團體即ち共產主義者と國家社會主義者とがある。オランダに於ける共產主義は他國と同様な段階を経て来たがさして強力ではなかつた。國家社會主義者はオランダの政治的生活に於ける第一流の要因ではなかつたが際立つた役割を演じて居た。彼等は或小數の意見を異にする人から離れてN.S.B運動を組織して居り、これは一九三一年に現在の指導者マザートによつて創設されたものである。マザートは政府囑託の重要な地位を占めて居る土木技師である。彼は最初ベルギーの條約に對して國家的反對の組織者として一九二五年から七年にかけて諸政に參與した。煽動政治家としては彼は第二流の人である。彼の最も手腕ある同僚は政治方面のトオニンゲン生まれのM.M.ロオストであり、一九三二年から一九三六年迄のオーストリアに於ける國際聯盟の財政方面の代表者であつた。ドイツ人はオランダ労働組織を第一に彼に委託した。そして現在はオランダ銀行を主宰して居る。併し彼は東印度の血統である爲國家社會主義者としては不利な地位にある。N.S.Bは普通のドイツの標準に依つて組織された。經濟不況に際しN.S.Bは農夫・下級の中産階級・一般の青年層の不

滿を利己的に利用し得た。N・S・Bはドイツ國家社會主義は資本主義をその敵から救つたと考へて居る。其結果一九三五年の地方諸州の選挙に於いては全投票の七九%を得て居る。然し再びかゝる好成績は見られなかつた。ドイツに於ける事件の成行がそれに反対したからである。ドイツナチ黨の明から様の軍國主義はオランダ人の平和主義と個人主義に反対して立つた。彼等の極端さは職工組合主義者や儲主をいやがらした。遂に一九三六年から九年にかけてのドイツの侵入はオランダ獨立に對する懸念を惹起した。そして凡ゆる階級の人々をオランダ家に糾合する様に導いた。その結果として評判はおち一九三九年には僅か三七%しか得られなかつた。下院に於いては百席の中四つ以上の席は決して持たなかつた。

オランダの獨立に對するN・S・Bの態度は巧妙に偽購的であつた。其指導者は常に愛國者たることを公言し、キヤソリック教徒と社會主義者の國際主義を指弾した。併し彼等の愛國主義の目的はオランダ王國ではなく、Uitendacle種族の爲であつた。此の種族は人種學と歴史の見地からは非常に問題となる存在であるのだが、オランダ人が一部をなしてゐると云はれてゐるもので、其他は先づ第一にフランスの小さい一角とベルギーに住んで居る(1)フランドル人と、第二は南アフリカのオランダ人である。N・S・Bは其政策にドイツ民族の理想を用ひた最初のものでは無かつた。一八九〇年から或るオランダ人の間には、主と

して學生と知識階級との間にフランドル人の國家主義に對する同情の念、及びオランダ・フレイツシ協會に對するはつきりしない慾望が湧いて來た。この運動は或る階級から見ればGreat Netherlandsの名前が與へられて居り、ベルギーに於けるフランドル人の過激論を支持する爲、又南アフリカに於ける英國の領土擴張主義を攻撃するためにドイツの宣傳がなした様にそれを利用した。明晰な見解を持つ人々は愛國心にこと寄せて親獨裏切りの單なる欺瞞に過ぎないと言ふ事を知つてゐた。そして一九三九年中N・S・Bの横柄と謀叛の行動を取つた社團は間抜け者の目を驚ませた。然しながら明らかにその眞音を出して來たのはドイツの侵略だつたとは言へない。

註(1) フランドル人はベルギーのより北部に住み彼等の言語はオランダ語であるが、様々な方言が話されて居る。一九三〇年にはベルギーの住民の四三%は英語を話し三八%はフランス語のみで一三%は兩語を話す。首府ブラッセル。



昭和十七年二月二十三日印刷  
昭和十七年二月二十五日發行

企畫院編纂  
内閣印刷局印刷發行

販賣所 内閣印刷局發行課  
東京市麹町區大手町  
電話九ノ内(三)三五九  
振替東京 一九〇〇〇  
全国各地官報販賣所  
全国各地主要書店  
定價 三十錢

官廳編纂圖書抄

法令全書(月刊)	定価 送料 〇八〇 不定	國民道德大意	定価 送料 〇四〇 〇四
官廳刊行圖書月報	定価 送料 〇四〇 〇八	國體の本義	定価 送料 〇四〇 〇四
労働統計月報	定価 送料 〇四 〇四	日本諸學(創刊號)	定価 送料 〇六〇 〇二
企畫(月刊)	定価 送料 〇三〇 〇八	日本諸學講演集第一輯(經濟學)	定価 送料 〇二〇 〇四
國家總動員法令集(第八回追加除濟)	定価 送料 二五〇 〇二〇	宗教關係法規集	定価 送料 一八〇 〇五
同 第九回追加除濟	定価 送料 二五〇 〇二〇	日本諸學振興委員會研究報告第十 三篇(藝術學)	定価 送料 二二〇 〇二
同 第十回追加除濟	定価 送料 二五〇 〇二〇	同 第十四篇(法學)	定価 送料 一八〇 〇五
神武天皇御記謹解	定価 送料 三〇〇 〇八	同 特輯第四篇(歷史學)	定価 送料 二五〇 〇二
明治天皇の御敬神	定価 送料 二五〇 〇二	同 特輯第五篇(教育學)	定価 送料 二六〇 〇二
德行錄	定価 送料 四〇〇 〇二	國體の本義解説叢書(日本の佛教)	定価 送料 二二〇 〇四
銀行局年報(第六十四次)	定価 送料 三八〇 〇二〇	大東亞戦争とわれら	定価 送料 二二〇 〇四
臣民の道	定価 送料 二〇〇 〇八	人口問題研究(月刊)	定価 送料 二五〇 〇八

内閣印刷局發行